

## Ⅱ. アンケート結果集計 (自由記述)

# 1. 第三者評価の意義等について

## (1) 第三者評価の意義・定義等

調査全体を通じてよかった点、困難や負担に感じた点、その他の意見

### a. 国実施型

#### ◆ 学校

		記述内容	回答数	小計	合計
第三者評価の意義・目的に関して	良かった点	課題(改善点)や成果が明確になった	5	35	39
		改善方策が明確になった (具体的な方向性が明確になった、示唆が得られた)	4		
		客観的な評価が得られた	2		
		客観的な示唆(助言)が得られた	2		
		専門的な評価(助言)が得られた	6		
		多くの視点(広い視野)からの評価が得られた	0		
		新しい気づきがあった(新たな視点が得られた)	3		
		教職員の意識改革・意識向上につながった	7		
		教職員の意欲向上につながった	1		
		教育活動全般の見直し(検証)ができた	2		
		重点活動の振り返りができた	1		
		学校の課題を掘り下げて考えることができた	0		
		自己評価の点検になった	1		
		学校評価に対する意識が向上した	1		
		学校評価の意義の再確認ができた	0		
		学校評価の在り方の見直しにつながった	0		
		学校・保護者・地域の連携の大切さを再確認できた	0		
	支援の必要性が明らかになった(要望の後押しとなった)	0			
	困難・負担	指導主事の指導と変わりがない	0	1	
	学校の課題についての助言があればいい	1			
	その他	3	3		
調査方法に関して	良かった点	評価委員の対応(態度・姿勢)がよい	1	10	
		教育上・学校運営上の負担はない	5		
		日常の学校の様子を見てもらえるのがよい	0		
		学校の一日の様子を全部見てもらえるのがよい	3		
		日程が適切であった	1		
	困難・負担	学校関係者(PTA含む)のインタビューの時間設定が難しい	0	6	
		学校関係者(PTA含む)の選定が難しい	1		
		日程調整が難しい(行事、出張などで)	1		
		調査日程が長すぎる	0		
		ヒアリングの時間設定に問題があった	0		
		何度もの授業観察は負担である	0		
		授業観察は時間をかけてじっくりしたほうがよい	0		
		インタビューでの質問の仕方が不適切 (マイナスの効果、意図が不明など)	0		
		事前資料の準備が負担である	2		
		資料が前年度のものであるので、今年度の取り組みの成果をみてほしい	0		
		最後の校長との懇談で情報の誤りを修正する機会がほしい	0		
		スケジュールが過密すぎる	2		
		教育活動に影響があった	0		
	より多くの教職員との面談、校長との懇談の時間がほしい	0			
	その他	14	14		
評価結果	より正確な評価のためにはより多くの資料が必要	0	2		
	学校の実態と異なる	0			
	評価結果の送付は1カ月以内が望ましい	2			
その他		9	9		
有効回答合計		80	80	80	

◆設置者

		記述内容	回答数	小計	合計
第三者評価の意義・目的に関して	良かった点	課題(改善点)や成果が明確になった	4	27	29
		改善方策が明確になった (具体的な方向性が明確になった、示唆が得られた)	2		
		客観的な評価が得られた	3		
		客観的な示唆(助言)が得られた	0		
		専門的な評価(助言)が得られた	4		
		多くの視点(広い視野)からの評価が得られた	1		
		新しい気付きがあった(新たな視点が得られた)	2		
		教職員の意識改革・意識向上につながった	0		
		教職員の意欲向上につながった	1		
		教育活動全般の見直し(検証)ができた	0		
		重点活動の振り返りができた	1		
		学校運営について振り返りを行うことができた	1		
		自己評価の点検になった	0		
		学校評価に対する意識が向上した	0		
		学校評価の意義の再確認ができた	0		
		学校評価の在り方を見直し・確認につながった	2		
		学校評価・学校関係者評価の補完として手ごたえがあった	1		
		支援・指導の必要性や方向性が明らかになった	5		
		支援の重点化が行えた	0		
		その他	2	2	
調査方法に関して	良かった点	評価委員の対応(態度・姿勢)がよい	1	3	18
		負担はない	1		
		日常の学校の様子を見てもらえるのがよい	0		
		学校の一日の様子を全部見てもらえるのがよい	1		
		日程が適切であった	0		
		評価項目・観点が適切であった	0		
		評価項目以外での助言があったのがよい	0		
		報告書を手交して説明したことが有意義であった	0		
		連続して受けることで成果を確認できた	0		
		地域の実態を知っている評価者であったのがよい	0		
	困難・負担	日程調整が難しい	2	4	
		調査日程が不適切であった	0		
		事前資料の準備が負担である	2		
		複数回の調査が望ましい	0		
	その他	0	11		
評価結果	より正確な評価のためにはより多くの資料が必要	0	1	1	
	学校の実態と異なる	1			
財源	財源の確保が困難である	3	3	3	
実施主体	設置者が実施することで地方の実態に応じた評価を行うことができた	0	0	0	
その他		2	2	2	
有効回答合計		53	53	53	

◆都道府県

記述内容	
第三者評価の意義・目的に関して	<p>国実施型の第三者評価に、設置者でない都教委として、どのようにかわればよいのか明確でなかった。</p> <p>設置者や学校の方針や取り組みに対して、専門的な立場から評価できる。</p> <p>県教育委員会としても、第三者評価の意義や実施方法について、理解を深めることができた。</p> <p>従来から地域に根ざした健全な学校運営をしている学校に対して、実施する妥当性があるかどうかという疑問もある。</p> <p>県教育委員会と今回の第三者評価の関係が、十分に理解できていない。</p>
学校評価・第三者評価に対する意識	<p>設置者からは、大変丁寧に観察や聞き取り等を実施していただいたことで、学校の運営状況や教育活動の良い点や課題が明確になったという感謝の言葉をもらった。</p> <p>見識の高い評価者の方ばかりであり、学校や設置者によって、納得のいく第三者評価になったようである。</p> <p>学校にとっては、準備等でやや負担はあったようだが、それ以上に、的確な評価によって、課題が明確になるとともにこれまでの取組についても高く評価され、自信を深めることもできたようである。</p> <p>設置者からは、この評価結果を活かして、早速、具体的な支援を実施したいという報告も受けた。</p> <p>県下全校の教育の水準を客観的にとらえる目的で実施する場合、評価規準の統一性等の課題や、序列等の誤解などの課題が考えられる。</p> <p>課題が難しく学校だけでは解決できない状態で、地域や設置者の連携・協力などにより、その改善の可能性がある場合などは、第三者による診断的・専門的な提案や助言により解決へ向かう機会となることは考えられる。</p> <p>学校の現状を成果と課題の視点から評価を具体的かつ的確に示した上で、改善の方向性を示していただけていることは、学校・町教委にとって、今後の学校運営、授業、管理面等の見直しをする点で次年度に生かす内容が明確になり、学校の運営改善及び学校の活性化に大いに役立つものである。</p> <p>良好な取組及び改善すべき点が具体的に記述されており、Actionへの連動がスムーズにできそうである。</p> <p>きめ細やかな評価をしていただき、学校運営全般について見直すきっかけとなった。</p> <p>改善の方向性については、さらに専門的な立場での助言をいただけるとありがたい。</p>
事前シートの有効性	事前評価シートの活用は、対象校、評価者、設置者のいずれにとっても有効であった。
評価項目の設定	評価項目の事前設定により、調査が効率的に行えた。
評価委員に関して	評価委員の確保が困難である。
負担	<p>文部科学省に、学校及び設置者への負担軽減の配慮が感じられるものであった。</p> <p>反面、学校及び評価委員を推薦した県教育委員会等への事前の連絡がなく、対応に苦慮した面もあった。</p> <p>文部科学省と該当市が直接やり取りを行うことで、業務に関する県としての負担は、無かったが、進行状況などの情報が伝わってこなかったため、情報の共有ができなかった。</p>
日程調整	調査対象校の訪問日程がもう少し早い時期に決まるとよい。
その他	平成19年度第三者評価試行報告書(三木町平井小学校)と比較して、①評価の観点と項目が整理され、具体的かつ詳細でわかりやすい、②評価シートの様式が洗練され、ビジュアル的にもわかりやすい
有効回答合計	23

◆評価者

		記述内容	回答数	小計	合計
第三者評価の意義・目的に関して	学校の課題や改善策について評価・助言できたのがよかった		2	27	27
	学校を第三者の立場で客観化していくことは有意義である		1		
	学校支援を目的とするほうが受け入れやすい		1		
	新たな学校評価の視点の提示ができる		0		
	学校と設置者の協力体制を構築するきっかけとなる		0		
	学校・家庭・地域が成果や課題を共有できる		0		
	専門的な視点から改善策を提案できた		0		
	客観的／新しい視点を提供することができた		2		
	成果と課題の両方を指摘した		1		
	校長への支援となる		0		
	教職員の意識改革につながった		0		
	その他		13		
	学校の教育活動、運営を見直すことができた		3		
	学校の改善に役立った		4		
	第三者評価の目的があいまい		0		
第三者評価の在り方		学校や地域の実情に応じた評価ができた	0	4	4
		重点目標に沿った評価だけにはならない	0		
		その他	4		
実施方法	日程	日程が短く十分な情報を収集できなかった	1	22	62
		日程に課題(長すぎる、短すぎる)	4		
		意見交換・記録整理の時間が不十分	17		
		評価シート記入の時間が確保されていた	0		
		情報収集と検証のための十分な時間が必要	0		
		実施時期に課題がある	0		
		実施時期に課題がある	0		
	訪問回数	訪問することで実態が把握できた	0	1	
		複数回の訪問がよい	1		
		フォローアップが必要である	0		
	資料	資料が十分にあった	1	2	
		資料が不十分であった	1		
	評価項目	それぞれの選択領域に共通項目を1つは入れるべき	2	2	
		観点の整理が必要である	0		
		項目が不適切である	0		
	ヒアリング	ヒアリング対象の選定を適切にすべきである	1	4	
		ヒアリングの時間が不十分である	3		
		PTA等のヒアリングはは少数意見になる危険性がある	0		
	授業観察	道徳や特別活動も観察すべきである	0	0	
		子どもの活動を観察したい	0		
	評価基準	評価基準が難しい(主観的になってしまう)	1	1	
報告書	改善策はどこまで踏み込んで提示したらいいのか難しい	1	1		
	伝え方が難しい	0			
その他	宿泊予算が確保されていた	0	29		
	分担はより多くの情報の収集には有効だが情報の共有化が難しい	0			
	その他	29			

	記述内容	回答数	小計	合計
負担	スケジュールが厳しい(忙しい、心身に負担)	6	25	25
	評価チームに参加するための時間確保が難しい(本務との関係)	3		
	学校の負担への配慮が必要である	0		
	学校の教育活動へのマイナスの影響があってはならない	0		
	評価＝「格付け」のイメージがあり、精神的な負担になる	0		
	作業負担が大きい	4		
	責任が重い	1		
	評価に対する自信が持てないのが精神的負担になる	1		
	負担は特になかった	2		
	負担の議論は本質的でない	1		
	その他	7		
	評価委員に関して	PTA関係の評価者は専門知識が不十分である		
専門的知識はなかったが学校の状態は見えた		0		
評価者の選定が難しい		0		
評価チームの構成が重要である (ベテラン指導主事、大学関係者が入っていたのがよかった、教育関係者以外の参加も必要)		10		
地域の教育実情について詳しい人がチームにいると有益である		6		
第三者性について課題がある		2		
評価者の確保に課題がある		4		
その他		18		
学校評価・第三者評価に対する意識	受け入れ側(学校)の第三者評価に対する意識が低い	3	11	11
	保護者や学校関係者の第三者評価に対する理解が不十分である	1		
	教育委員会の第三者評価に対する理解が不十分である	0		
	教育委員会の学校評価に対する理解度・意識が低い	1		
	自己評価が不十分である	0		
	受け入れ側(学校)の学校改善への意識が低い	1		
	学校評価充実のための支援が必要である	1		
	受け入れ姿勢がよい	1		
	その他	3		
その他		50	50	50
有効回答合計		219	219	219

b.地方実施型

◆学校

記述内容		回答数	小計	合計	
第三者評価の意義・目的に関して	良かった点	課題(改善点)や成果が明確になった	8	62	67
		改善方策が明確になった (具体的な方向性が明確になった、示唆が得られた)	10		
		客観的な評価が得られた	6		
		客観的な示唆(助言)が得られた	3		
		専門的な評価(助言)が得られた	3		
		多くの視点(広い視野)からの評価が得られた	3		
		新しい気付きがあった(新たな視点が得られた)	6		
		教職員の意識改革・意識向上につながった	6		
		教職員の意欲向上につながった	2		
		教育活動全般の見直し(検証)ができた	5		
		重点活動の振り返りができた	1		
		学校の課題を掘り下げて考えることができた	1		
		自己評価の点検になった	0		
		学校評価に対する意識が向上した	2		
		学校評価の意義の再確認ができた	1		
		学校評価の在り方の見直しにつながった	3		
		学校・保護者・地域の連携の大切さを再確認できた	1		
		支援の必要性が明らかになった(要望の後押しとなった)	1		
	困難・負担	指導主事の指導と変わりがない	1	1	
		学校の課題についての助言があればいい	0		
その他		4	4		
調査方法に関して	良かった点	評価委員の対応(態度・姿勢)がよい	5	14	47
		教育上・学校運営上の負担はない	4		
		日常の学校の様子を見てもらえるのがよい	2		
		学校の一日の様子を全部見てもらえるのがよい	1		
		日程が適切であった	2		
		困難・負担	学校関係者(PTA含む)のインタビューの時間設定が難しい		
	学校関係者(PTA含む)の選定が難しい		1		
	日程調整が難しい(行事、出張などで)		2		
	調査日程が長すぎる		3		
	ヒアリングの時間設定に問題があった		1		
	何度もの授業観察は負担である		1		
	授業観察は時間をかけてじっくりしたほうがよい		2		
	インタビューでの質問の仕方が不適切 (マイナスの効果、意図が不明など)		2		
	事前資料の準備が負担である		4		
	資料が前年度のものであるので、今年度の取り組みの成果をみてほしい		1		
	最後の校長との懇談で情報の誤りを修正する機会がほしい		1		
	スケジュールが過密すぎる		1		
	教育活動に影響があった		1		
	より多くの教職員との面談、校長との懇談の時間がほしい		1		
	その他		9	9	
評価結果	より正確な評価のためにはより多くの資料が必要	1	2	19	
	学校の実態と異なる	1			
その他		17	17		
有効回答数		133	133	133	

◆設置者

記述内容		回答数	小計	合計			
第三者評価の意義・目的に関して	良かった点	課題(改善点)や成果が明確になった	3	28	28		
		改善方策が明確になった (具体的な方向性が明確になった、示唆が得られた)	4				
		客観的な評価が得られた	3				
		客観的な示唆(助言)が得られた	0				
		専門的な評価(助言)が得られた	2				
		多くの視点(広い視野)からの評価が得られた	2				
		新しい気づきがあった(新たな視点が得られた)	3				
		教職員の意識改革・意識向上につながった	2				
		教職員の意欲向上につながった	1				
		教育活動全般の見直し(検証)ができた	0				
		重点活動の振り返りができた	0				
		学校運営について振り返りを行うことができた	1				
		自己評価の点検になった	0				
		学校評価に対する意識が向上した	0				
		学校評価の意義の再確認ができた	0				
		学校評価の在り方を見直し・確認につながった	2				
		学校評価・学校関係者評価の補完として手ごたえがあった	1				
		支援・指導の必要性や方向性が明らかになった	3				
		支援の重点化が行えた	1				
	その他	0	0				
調査方法に関して	良かった点	評価委員の対応(態度・姿勢)がよい	1	9	17		
		負担はない	0				
		日常の学校の様子を見てもらえるのがよい	0				
		学校の一日の様子を全部見てもらえるのがよい	1				
		日程が適切であった	2				
		評価項目・観点が適切であった	1				
		評価項目以外での助言があったのがよい	1				
		報告書を手交して説明したことが有意義であった	1				
		連続して受けることで成果を確認できた	1				
		地域の実態を知っている評価者であったのがよい	1				
		困難・負担	日程調整が難しい			3	8
			調査日程が不適切であった			1	
			事前資料の準備が負担である			2	
	複数回の調査が望ましい		1				
評価者の選定が困難	1	0					
その他	0	0					
評価結果	より正確な評価のためにはより多くの資料が必要	0	0	0			
	学校の実態と異なる	0					
財源	財源の確保が困難である	1	1	1			
実施主体	設置者が実施することで地方の実態に応じた評価を行うことができた	1	1	1			
その他		3	3	3			
有効回答数		50	50	50			



◆受託者

記述内容	
第三者評価の意義・目的に関して	自己評価、学校関係者評価の取り組みに対して、評定チームによる第三者的な評価を行うことで、評価の信頼性、客観性が増し、各学校が学校運営改善に役立てるものとなった。
学校評価・第三者評価に対する意識	学校評価とは何か、ということが教職員、管理職に浸透するように、今後とも研修を推進する必要があると感じた。 評価を受ける学校の意識によっては、第三者評価の評価を改善につなげようとするのが難しいこともあることが分かった。 第三者評価を学校運営の改善の機会ととらえていると思われるところは、調査活動への対応や評価結果の受け止め方がとても前向きである。 学校あるいは教育委員会の第三者評価に対する認識や考え方により、調査活動への対応や評価結果の受け止め方が少し異なったようである。
事前シートの有効性	事前評価シートの活用は、対象校にとっても、設置者にとっても有効であった。
評価項目の設定	評価項目の事前の設定により、調査が効率的に行えた。
評価委員に関して	評価委員の選出については、専門的視点や評価者の第三者性の確保など、多くの点から検討することが必要である。 将来、市町村教育委員会等が評価者を選出する際、いくつかの市町村が連携するなど広域の実施体制をとったとしても、地域によっては評価者の確保が難しくなることが考えられる。
負担	評価項目、評価指標の作成、評価チームの日程調整・編成、調査協力校との連絡・調整、調査報告書の作成等、事務局が行うべき事務的負担は大きなものがある。 また、調査協力校においても、既存の資料提出を求めているものの、負担感は大きいものと考えられる。 長時間学校を訪問し、ヒアリングや授業観察を実施することは学校にとっても評価者にとっても負担が大きい。
日程調整	第三者評価委員と学校との日程調整及びヒアリング時間の確保が困難であった。
その他	学校は第三者を学校内に受け入れることで緊張感を持つ。(よい点でもあり負担でもある) 評価者の選任、事前研修、実地調査の日程決め、報告書作成等、事業を動かす上で時間的なゆとりが全くなかった。 学校の第三者評価に取り組み、評価項目、評価指標の在り方、評価委員の構成、学校に対する調査訪問の方法等、本県において学校の設置者が学校評価の充実に資するため第三者評価を実施する際の知見を得ることができた。
有効回答合計	16

◆評価者

記述内容		回答数	小計	合計	
第三者評価の意義・目的に関して	学校の課題や改善策について評価・助言できたのがよかった	4	30	30	
	学校を第三者の立場で客観化していくことは有意義である	1			
	学校支援を目的とするほうが受け入れやすい	1			
	新たな学校評価の視点の提示ができる	2			
	学校と設置者の協力体制を構築するきっかけとなる	1			
	学校・家庭・地域が成果や課題を共有できる	1			
	専門的な視点から改善策を提案できた	3			
	客観的／新しい視点を提供することができた	3			
	成果と課題の両方を指摘した	0			
	校長への支援となる	2			
	教職員の意識改革につながった	3			
	学校の教育活動、運営を見直すことができた	3			
	学校の改善に役立った	2			
	第三者評価の目的があいまい	2			
その他	2				
第三者評価の在り方	学校や地域の実情に応じた評価ができた	1	6	6	
	重点目標に沿った評価だけにはならない	0			
	その他	5			
実施方法	日程	日程が短く十分な情報を収集できなかった	10	23	48
		日程に課題(長すぎる、短すぎる)	4		
		意見交換・記録整理の時間が不十分	3		
		評価シート記入の時間が確保されていた	1		
		情報収集と検証のための十分な時間が必要	1		
		実施時期に課題がある	3		
		その他	1		
		訪問回数	訪問することで実態が把握できた		
	複数回の訪問がよい		2		
	フォローアップが必要である		1		
	数年に一度の訪問がよい		1		
	資料	資料が十分にあった	3	5	
		資料が不十分であった	2		
		評価項目	それぞれの選択領域に共通項目を1つは入れるべき		
	観点の整理が必要である	1			
	項目が不適切である	0			
	ヒアリング	ヒアリング対象の選定を適切にすべきである	2	6	
		ヒアリングの時間が不十分である	3		
		PTA等のヒアリングはは少数意見になる危険性がある	1		
	授業観察	道徳や特別活動も観察すべきである	2	4	
		子どもの活動を観察したい	2		
評価基準 報告書	評価基準が難しい(主観的になってしまう)	1	1		
	改善策はどこまで踏み込んで提示したらいいのか難しい 伝え方が難しい	1 1	2		
その他	宿泊予算が確保されていた	1	10	10	
	分担はより多くの情報の収集には有効だが情報の共有化が難しい	1			
	その他	8			

	記述内容	回答数	小計	合計
負担	スケジュールが厳しい(忙しい、心身に負担)	10	27	27
	評価チームに参加するための時間確保が難しい(本務との関係)	1		
	学校の負担への配慮が必要である	2		
	学校の教育活動へのマイナスの影響があってはならない	1		
	評価=「格付け」のイメージがあり、精神的な負担になる	2		
	作業負担が大きい	3		
	責任が重い	3		
	評価に対する自信が持てないのが精神的負担になる	0		
	負担は特になかった	2		
	負担の議論は本質的でない	1		
	その他	2		
評価委員に関して	PTA関係の評価者は専門知識が不十分である	6	20	20
	専門的知識はなかったが学校の状態は見えた	1		
	評価者の選定が難しい	1		
	評価チームの構成が重要である (ベテラン指導主事、大学関係者が入っていたのがよかった、教育関係者以外の参加も必要)	3		
	地域の教育実情について詳しい人がチームにいると有益である	2		
	第三者性について課題がある	1		
	評価者の確保に課題がある	3		
	その他	3		
学校評価・第三者評価に対する意識	受け入れ側(学校)の第三者評価に対する意識が低い	3	19	19
	保護者や学校関係者の第三者評価に対する理解が不十分である	2		
	教育委員会の第三者評価に対する理解が不十分である	1		
	教育委員会の学校評価に対する理解度・意識が低い	1		
	自己評価が不十分である	1		
	受け入れ側(学校)の学校改善への意識が低い	0		
	学校評価充実のための支援が必要である	2		
	受け入れ姿勢がよい	3		
	その他	6		
その他		35	35	35
有効回答合計		195	195	195

## 2. 第三者評価の在り方について

### (2) 評価の実施について

#### ① 評価実施の在り方

#### 評価について

A～Dなどの評価をつけず、講評の記述のみであることについて

#### a. 国実施型

#### ◆ 学校

	記述内容	回答数	計
つけないほうがよい	評価は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほうが改善につながる)	4	39
	具体的に改善方策を明確にすることが重要であるから (評価からは具体的な課題や改善方策が見えないから、 講評のほうが具体的な課題や改善方策がわかりやすいから)	2	
	評価の基準があいまいであるから	6	
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	0	
	短期間の調査では十分な把握ができないから	4	
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから	2	
	評価のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、序列化、数字のみにとられる)	4	
	講評のほうが有意義であるから	4	
	評価はなくても十分である	3	
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	1	
	調査が大掛かりになってしまうから	0	
	講評は意欲の助長につながるから (受け取りやすい、評価が低いと意欲が低下するから)	1	
	講評の内容で評価はわかる	0	
	学校が評価を受けることに慣れていない (評価の結果を理解できない)	0	
	教育活動に評価は不適切であるから	0	
	第三者評価の目的は改善であるから	0	
	評価では項目ごとの比重の違いを反映できないから	0	
	学校が望むのは講評であるから	0	
	講評のほうが評価者の意図が伝わりやすいから	0	
	評価をつけるには時間がかかるから(負担が大きいから)	1	
評価では教育活動の過程が見えないから	0		
その他	5		
評価よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	0		
あれば目安になるが、なくてもわかる	0		
課題と改善の方向性を示すのに評価は不要である	2		
どちらともいえない		1	1
つけたほうがよい	評価結果や課題がより明確になる	1	8
	達成度や現状を客観的に判断できる	2	
	自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから	1	
	わかりやすい、参考になる	2	
	前年度との比較ができる	0	
その他	2		
有効回答合計		48	48

◆設置者

	記述内容	回答数	計		
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほう改善につながる)	0	32		
	具体的に改善方法を明確にすることが重要であるから (評定からは具体的な課題や改善策が見えないから、 講評のほう具体的な課題や改善策がわかりやすいから)	2			
	評価の基準があいまいであるから	5			
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	2			
	短期間の調査では十分な把握ができないから	0			
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから	2			
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、序列化、数字のみにとられる)	7			
	講評のほうが有意義であるから	4			
	評定はなくても十分である	1			
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	3			
	調査が大掛かりになってしまうから	0			
	講評は意欲の助長につながるから (受け取りやすい、評定が低いと意欲が低下するから)	1			
	講評の内容で評定はわかる	0			
	学校が評定を受けることに慣れていない (評価の結果を理解できない)	0			
	教育活動に評定は不適切であるから	0			
	第三者評価の目的は改善であるから	0			
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	0			
	学校が望むのは講評であるから	0			
	講評のほう評価者の意図が伝わりやすいから	0			
	評定をつけるには時間がかかるから(負担が大きいから)	0			
	評定では教育活動の過程が見えないから	0			
	その他	2			
	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	3			
	あれば目安になるが、なくてもわかる	0			
	課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0			
	どちらともいえない			0	0
	つけたほうがよい	評価結果や課題がより明確になる		4	10
達成度や現状を客観的に判断できる		1			
自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから		1			
わかりやすい、参考になる		4			
前年度との比較ができる		0			
その他	0	0			
有効回答合計		42	42		

◆都道府県

	記述内容	回答数	計		
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほうが改善につながる)	1	21		
	具体的に改善方を明確にすることが重要であるから (評定からは具体的な課題や改善策が見えないから、 講評のほうが具体的な課題や改善策がわかりやすいから)	0			
	評価の基準があいまいであるから	6			
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	1			
	短期間の調査では十分な把握ができないから	0			
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから	2			
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、序列化、数字のみにとられる)	5			
	講評のほうが有意義であるから	0			
	評定はなくても十分である	0			
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	0			
	調査が大掛かりになってしまうから	0			
	講評は意欲の助長につながるから (受け取りやすい、評定が低いと意欲が低下するから)	0			
	講評の内容で評定はわかる	0			
	学校が評定を受けることに慣れていない (評価の結果を理解できない)	0			
	教育活動に評定は不適切であるから	0			
	第三者評価の目的は改善であるから	1			
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	0			
	学校が望むのは講評であるから	0			
	講評のほうが評価者の意図が伝わりやすいから	0			
	評定をつけるには時間がかかるから(負担が大きいから)	0			
	評定では教育活動の過程が見えないから	0			
	その他	2			
	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	0			
	あれば目安になるが、なくてもわかる	0			
	課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	3			
	どちらともいえない			0	0
	つけたほうがよい	評価結果や課題がより明確になる		2	6
達成度や現状を客観的に判断できる		2			
自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから		1			
わかりやすい、参考になる		1			
前年度との比較ができる		0			
その他	0	0			
有効回答合計		27	27		

◆評価者

	記述内容	回答数	計
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほう改善につながる)	14	203
	評定からは具体的な課題や改善策が見えないから (講評のほう具体的な課題や改善策がわかりやすい)	13	
	評価の基準があいまいであるから	31	
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	0	
	短期間の調査では十分な把握ができないから	14	
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから (学校ごとに状況が異なるなかで、同じ基準では評価しにくい)	10	
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、格付け、序列化への懸念、数字にとられる)	23	
	講評のほう有意義であるから、具体的に分かりやすいから、 (伝わりやすい、建設的など)	12	
	評定はなくても十分である	13	
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	4	
	調査が大掛かりになってしまうから	0	
	講評は意欲の助長につながるから(受け取りやすい、受け入れやすい)	12	
	講評の内容で評定はわかる	1	
	学校が評定を受けることに慣れていない(評定の意味を理解できない)	1	
	教育活動に評定は不適切であるから	3	
	第三者評価の目的は改善・学校の応援であるから	13	
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	1	
	学校が望むのは課題の指摘と改善策の提示である	2	
	評定では、評価者の意図が伝わりにくい (講評のほう意図が伝わりやすい)	4	
	評定をつけるのに時間がかかる(評価者にとって負担である)	3	
評定では、学校の取り組みの過程が見えなくなる	1		
その他	28		
どちらともいえない	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	0	3
	あれば目安になるが、なくてもわかる	0	
	課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0	
	講評のほうが気持ち的に楽(評定をつけるのは精神的に負担)	0	
	第三者評価の目的や実施の在り方による	0	
	その他	3	
つけたほうがよい	評価や課題がより明確になる	8	41
	達成度や現状を客観的に判断できる	5	
	自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから	3	
	わかりやすい、参考になる	9	
	前年度との比較ができる	1	
	課題の意識付けが明確になる	2	
	評定のほうが客観性が高まる	5	
	どこが一番問題であるかが明確になるから	0	
	文章は受け取り方や解釈によって正しく伝わらない可能性があるから	0	
	その他	8	
その他	1	1	
有効回答合計		248	248

b.地方実施型

◆学校

記述内容		回答数	計
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほうが改善につながる)	0	42
	具体的に改善方策を明確にすることが重要であるから (評定からは具体的な課題や改善方策が見えないから、 講評のほうが具体的な課題や改善方策がわかりやすいから)	1	
	評価の基準があいまいであるから	5	
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	1	
	短期間の調査では十分な把握ができないから	1	
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから	1	
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、序列化、数字のみにとられる)	5	
	講評のほうが有意義であるから	12	
	評定はなくても十分である	6	
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	2	
	調査が大掛かりになってしまうから	1	
	講評は意欲の助長につながるから (受け取りやすい、評定が低いと意欲が低下するから)	0	
	講評の内容で評定はわかる	0	
	学校が評定を受けることに慣れていない (評価の結果を理解できない)	0	
	教育活動に評定は不適切であるから	0	
	第三者評価の目的は改善であるから	0	
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	0	
	学校が望むのは講評であるから	0	
	講評のほうが評価者の意図が伝わりやすいから	0	
	評定をつけるには時間がかかるから(負担が大きいから)	0	
	評定では教育活動の過程が見えないから	0	
	その他	5	
	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	1	
あれば目安になるが、なくてもわかる	1		
課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0		
どちらともいえない		4	4
つけたほうがよい	評価結果や課題がより明確になる	6	31
	達成度や現状を客観的に判断できる	12	
	自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから	1	
	わかりやすい、参考になる	5	
	前年度との比較ができる	2	
その他	5		
有効回答合計		77	77



◆設置者

	記述内容	回答数	計		
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほう改善につながる)	0	15		
	具体的に改善方法を明確にすることが重要であるから (評定からは具体的な課題や改善策が見えないから、 講評のほう具体的な課題や改善策がわかりやすいから)	0			
	評価の基準があいまいであるから	1			
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	0			
	短期間の調査では十分な把握ができないから	1			
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから	0			
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、序列化、数字のみにとられる)	2			
	講評のほう有意義であるから	6			
	評定はなくても十分である	3			
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	2			
	調査が大掛かりになってしまうから	0			
	講評は意欲の助長につながるから (受け取りやすい、評定が低いと意欲が低下するから)	0			
	講評の内容で評定はわかる	0			
	学校が評定を受けることに慣れていない (評価の結果を理解できない)	0			
	教育活動に評定は不適切であるから	0			
	第三者評価の目的は改善であるから	0			
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	0			
	学校が望むのは講評であるから	0			
	講評のほう評価者の意図が伝わりやすいから	0			
	評定をつけるには時間がかかるから(負担が大きいから)	0			
	評定では教育活動の過程が見えないから	0			
	その他	0			
	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	0			
	あれば目安になるが、なくてもわかる	0			
	課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0			
	どちらともいえない			1	1
	つけたほうがよい	評価結果や課題がより明確になる		4	11
達成度や現状を客観的に判断できる		3			
自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから		0			
わかりやすい、参考になる		0			
前年度との比較ができる		2			
その他	2				
有効回答合計		27	27		

◆受託者

	記述内容	回答数	計
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほうが改善につながる)	1	5
	具体的に改善方を明確にすることが重要であるから (評定からは具体的な課題や改善策が見えないから、 講評のほうが具体的な課題や改善策がわかりやすいから)	0	
	評価の基準があいまいであるから	0	
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	0	
	短期間の調査では十分な把握ができないから	0	
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから	0	
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、序列化、数字のみにとられる)	0	
	講評のほうが有意義であるから	2	
	評定はなくても十分である	1	
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	1	
	調査が大掛かりになってしまうから	0	
	講評は意欲の助長につながるから (受け取りやすい、評定が低いと意欲が低下するから)	0	
	講評の内容で評定はわかる	0	
	学校が評定を受けることに慣れていない (評価の結果を理解できない)	0	
	教育活動に評定は不適切であるから	0	
	第三者評価の目的は改善であるから	0	
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	0	
	学校が望むのは講評であるから	0	
	講評のほうが評価者の意図が伝わりやすいから	0	
	評定をつけるには時間がかかるから(負担が大きいから)	0	
	評定では教育活動の過程が見えないから	0	
	その他	0	
	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	0	
	あれば目安になるが、なくてもわかる	0	
	課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0	
	どちらともいえない		
つけたほうがよい	評価結果や課題がより明確になる	2	2
	達成度や現状を客観的に判断できる	0	
	自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから	0	
	わかりやすい、参考になる	0	
	前年度との比較ができる	0	
その他	0	0	
有効回答合計		7	7

◆評価者

	記述内容	回答数	計
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほう改善につながる)	5	97
	評定からは具体的な課題や改善策が見えないから (講評のほう具体的な課題や改善策がわかりやすい)	5	
	評価の基準があいまいであるから	19	
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	0	
	短期間の調査では十分な把握ができないから	2	
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから (学校ごとに状況が異なるなかで、同じ基準では評価しにくい)	2	
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、格付け、序列化への懸念、数字にとられる)	12	
	講評のほうが有意義であるから、具体的に分かりやすいから、 (伝わりやすい、建設的など)	12	
	評定はなくても十分である	2	
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	0	
	調査が大掛かりになってしまうから	0	
	講評は意欲の助長につながるから(受け取りやすい、受け入れやすい)	6	
	講評の内容で評定はわかる	1	
	学校が評定を受けることに慣れていない(評定の意味を理解できない)	1	
	教育活動に評定は不適切であるから	4	
	第三者評価の目的は改善・学校の応援であるから	10	
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	1	
	学校が望むのは課題の指摘と改善策の提示である	0	
	評定では、評価者の意図が伝わりにくい (講評のほう意図が伝わりやすい)	4	
	評定をつけるのに時間がかかる(評価者にとって負担である)	0	
評定では、学校の取り組みの過程が見えなくなる	0		
その他	11		
どちらともいえない	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	0	6
	あれば目安になるが、なくてもわかる	1	
	課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0	
	講評のほうが気持ち的に楽(評定をつけるのは精神的に負担)	1	
	第三者評価の目的や実施の在り方による	2	
	その他	2	
つけたほうがよい	評価や課題がより明確になる	5	25
	達成度や現状を客観的に判断できる	5	
	自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから	0	
	わかりやすい、参考になる	3	
	前年度との比較ができる	0	
	課題の意識付けが明確になる	2	
	評定のほうが客観性が高まる	1	
	どこが一番問題であるかが明確になるから	1	
	文章は受け取り方や解釈によって正しく伝わらない可能性があるから	3	
	その他	5	
その他	0	0	
有効回答合計		128	128

A～Dなどの評定をつけることについて

a.国実施型

◆評価者

	記述内容	回答数	計
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほうが改善につながる)	13	204
	評定からは具体的な課題や改善方策が見えないから (講評のほうが具体的な課題や改善方策がわかりやすい)	18	
	評価の基準があいまいであるから	32	
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	1	
	短期間の調査では十分な把握ができないから	18	
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから (学校ごとに状況が異なるなかで、同じ基準では評価しにくい)	8	
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、格付け、序列化への懸念、数字にとらわれる)	38	
	講評のほうが有意義であるから、具体的に分かりやすいから、 (伝わりやすい、建設的など)	1	
	評定はなくても十分である	6	
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	0	
	調査が大掛かりになってしまうから	0	
	講評は意欲の助長につながるから(受け取りやすい、受け入れやすい)	18	
	講評の内容で評定はわかる	1	
	学校が評定を受けることに慣れていない(評定の意味を理解できない)	3	
	教育活動に評定は不適切であるから	1	
	第三者評価の目的は改善・学校の応援であるから	17	
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	1	
	学校が望むのは課題の指摘と改善策の提示である	0	
	評定では、評価者の意図が伝わりにくい (講評のほうが意図が伝わりやすい)	2	
	評定をつけるのに時間がかかる(評価者にとって負担である)	5	
評定では、学校の取り組みの過程が見えなくなる	1		
その他	20		
どちらともいえない	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	0	7
	あれば目安になるが、なくてもわかる	0	
	課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0	
	講評のほうが気持ち的に楽(評定をつけるのは精神的に負担)	0	
	第三者評価の目的や実施の在り方による	1	
その他	6		
つけたほうがよい	評価や課題がより明確になる	10	43
	達成度や現状を客観的に判断できる	4	
	自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから	2	
	わかりやすい、参考になる	7	
	前年度との比較ができる	1	
	課題の意識付けが明確になる	1	
	評定のほうが客観性が高まる	4	
	どこが一番問題であるかが明確になるから	1	
	文章は受け取り方や解釈によって正しく伝わらない可能性があるから	0	
	その他	13	
その他	0	0	
有効回答合計		254	254

b.地方実施型

◆学校

	記述内容	回答数	計
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほうが改善につながる)	2	39
	具体的に改善方策を明確にすることが重要であるから (評定からは具体的な課題や改善方策が見えないから、 講評のほうが具体的な課題や改善方策がわかりやすいから)	4	
	評価の基準があいまいであるから	4	
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	2	
	短期間の調査では十分な把握ができないから	3	
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから	2	
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、序列化、数字のみにとられる)	7	
	講評のほうが有意義であるから	6	
	評定はなくても十分である	0	
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	2	
	調査が大掛かりになってしまうから	2	
	講評は意欲の助長につながるから (受け取りやすい、評定が低いと意欲が低下するから)	0	
	講評の内容で評定はわかる	0	
	学校が評定を受けることに慣れていない (評価の結果を理解できない)	0	
	教育活動に評定は不適切であるから	0	
	第三者評価の目的は改善であるから	0	
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	0	
	学校が望むのは講評であるから	0	
	講評のほうが評価者の意図が伝わりやすいから	0	
	評定をつけるには時間がかかるから(負担が大きいから)	0	
	評定では教育活動の過程が見えないから	0	
	その他	3	
	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	1	
あれば目安になるが、なくてもわかる	1		
課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0		
どちらともいえない		3	3
つけたほうがよい	評価結果や課題がより明確になる	11	37
	達成度や現状を客観的に判断できる	12	
	自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから	1	
	わかりやすい、参考になる	8	
	前年度との比較ができる	1	
	その他	4	
有効回答合計		79	79

◆設置者

	記述内容	回答数	計		
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほうが改善につながる)	0	24		
	具体的に改善方を明確にすることが重要であるから (評定からは具体的な課題や改善策が見えないから、 講評のほうが具体的な課題や改善策がわかりやすいから)	0			
	評価の基準があいまいであるから	8			
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	1			
	短期間の調査では十分な把握ができないから	2			
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから	2			
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、序列化、数字のみにとられる)	2			
	講評のほうが有意義であるから	3			
	評定はなくても十分である	2			
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	1			
	調査が大掛かりになってしまうから	1			
	講評は意欲の助長につながるから (受け取りやすい、評定が低いと意欲が低下するから)	0			
	講評の内容で評定はわかる	0			
	学校が評定を受けることに慣れていない (評価の結果を理解できない)	0			
	教育活動に評定は不適切であるから	0			
	第三者評価の目的は改善であるから	0			
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	0			
	学校が望むのは講評であるから	0			
	講評のほうが評価者の意図が伝わりやすいから	0			
	評定をつけるには時間がかかるから(負担が大きいから)	0			
	評定では教育活動の過程が見えないから	0			
	その他	2			
	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	0			
	あれば目安になるが、なくてもわかる	0			
	課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0			
	どちらともいえない			0	0
	つけたほうがよい	評価結果や課題がより明確になる		2	10
達成度や現状を客観的に判断できる		3			
自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから		1			
わかりやすい、参考になる		1			
前年度との比較ができる		1			
その他	2				
有効回答合計		34	34		

◆受託者

	記述内容	回答数	計
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほうが改善につながる)	1	6
	具体的に改善方策を明確にすることが重要であるから (評定からは具体的な課題や改善方策が見えないから、 講評のほうが具体的な課題や改善方策がわかりやすいから)	1	
	評価の基準があいまいであるから	2	
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	0	
	短期間の調査では十分な把握ができないから	1	
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから	0	
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、序列化、数字のみにとられる)	0	
	講評のほうが有意義であるから	0	
	評定はなくても十分である	0	
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	1	
	調査が大掛かりになってしまうから	0	
	講評は意欲の助長につながるから (受け取りやすい、評定が低いと意欲が低下するから)	0	
	講評の内容で評定はわかる	0	
	学校が評定を受けることに慣れていない (評価の結果を理解できない)	0	
	教育活動に評定は不適切であるから	0	
	第三者評価の目的は改善であるから	0	
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	0	
	学校が望むのは講評であるから	0	
	講評のほうが評価者の意図が伝わりやすいから	0	
	評定をつけるには時間がかかるから(負担が大きいから)	0	
	評定では教育活動の過程が見えないから	0	
	その他	0	
	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	0	
あれば目安になるが、なくてもわかる	0		
課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0		
どちらともいえない		0	0
つけたほうがよい	評価結果や課題がより明確になる	2	2
	達成度や現状を客観的に判断できる	0	
	自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから	0	
	わかりやすい、参考になる	0	
	前年度との比較ができる	0	
その他	0	0	
有効回答合計		8	8

◆評価者

	記述内容	回答数	計
つけないほうがよい	評定は学校運営や授業の改善につながらないから (講評のほう改善につながる)	5	87
	評定からは具体的な課題や改善策が見えないから (講評のほう具体的な課題や改善策がわかりやすい)	5	
	評価の基準があいまいであるから	16	
	自己満足や意欲の低下につながる恐れがあるから	2	
	短期間の調査では十分な把握ができないから	5	
	すべての学校を一律の基準で評価することは困難であるから (学校ごとに状況が異なるなかで、同じ基準では評価しにくい)	3	
	評定のみが独り歩きをする恐れがあるから (他校との比較、格付け、序列化への懸念、数字にとられる)	22	
	講評のほうが有意義であるから、具体的に分かりやすいから、 (伝わりやすい、建設的など)	7	
	評定はなくても十分である	0	
	数値よりも助言や学校経営の振り返りに意味があるから	0	
	調査が大掛かりになってしまうから	0	
	講評は意欲の助長につながるから(受け取りやすい、受け入れやすい)	2	
	講評の内容で評定はわかる	1	
	学校が評定を受けることに慣れていない(評定の意味を理解できない)	0	
	教育活動に評定は不適切であるから	5	
	第三者評価の目的は改善・学校の応援であるから	5	
	評定では項目ごとの比重の違いを反映できないから	1	
	学校が望むのは課題の指摘と改善策の提示である	0	
	評定では、評価者の意図が伝わりにくい (講評のほう意図が伝わりやすい)	2	
	評定をつけるのに時間がかかる(評価者にとって負担である)	0	
評定では、学校の取り組みの過程が見えなくなる	1		
その他	5		
どちらともいえない	評定よりも今後の改善にどう生かしていくかが重要であるから	0	9
	あれば目安になるが、なくてもわかる	1	
	課題と改善の方向性を示すのに評定は不要である	0	
	講評のほう気持ち的に楽(評定をつけるのは精神的に負担)	2	
	第三者評価の目的や実施の在り方による	2	
その他	4		
つけたほうがよい	評価や課題がより明確になる	5	36
	達成度や現状を客観的に判断できる	5	
	自己評価・学校関係者評価との比較が可能になるから	0	
	わかりやすい、参考になる	8	
	前年度との比較ができる	3	
	課題の意識付けが明確になる	3	
	評定のほうが客観性が高まる	2	
	どこが一番問題であるかが明確になるから	2	
	文章は受け取り方や解釈によって正しく伝わらない可能性があるから	0	
その他	8		
その他		1	1
有効回答合計		133	133



改善提案について

改善のための提案や専門的助言を報告書に含めることについて

a. 国実施型

◆ 学校

	記述内容	回答数	計
必要	学校運営の改善に役立つから(重要な示唆となる)	5	41
	助言がないと改善に結びつかない	0	
	学校改善が第三者評価の目的であるから (助言が最も重要、助言がないと第三者評価の意味がない)	2	
	新たな観点での方向性、改善策を得られるから	5	
	次年度の計画に役立つから	0	
	信頼できる提案や助言であるから、重みがあるから	0	
	専門家の意見を聞きたい、期待している	7	
	学校が求めているのは助言であるから	1	
	教職員に対する説得力があるから、学校改善のバックアップとなるから	0	
	設置者への要望がしやすい	0	
	すぐに実行できるから	0	
	参考にしたい、参考になる	7	
	評価委員を協力者と位置付けるほうがよいから	0	
	その他	14	
どちらともいえない	あれば目安になるが、なくてもわかる	0	3
	必要に応じて行えばよく、必須ではない	0	
	学校の実態を十分に理解していないと改善に役立たない	2	
	学校が(教育委員会に相談しながら)主体的に改善を行うべき	0	
	現時点では有用性を判断できない	0	
	その他	1	
有効回答合計		44	44

◆設置者

	記述内容	回答数	計
必要	学校運営の改善に役立つから(重要な示唆となる)	6	26
	助言がないと改善に結びつかない	1	
	学校改善が第三者評価の目的であるから (助言が最も重要、助言がないと第三者評価の意味がない)	5	
	新たな観点での方向性、改善策を得られるから	5	
	次年度の計画に役立つから	0	
	信頼できる提案や助言であるから、重みがあるから	1	
	専門家の意見を聞きたい、期待している	2	
	学校が求めているのは助言であるから	0	
	教職員に対する説得力があるから、学校改善のバックアップとなるから	1	
	設置者への要望がしやすい	0	
	すぐに実行できるから	0	
	参考にしたい、参考になる	2	
	評価委員を協力者と位置付けるほうがよいから	0	
	その他	3	
どちらともいえない	あれば目安になるが、なくてもわかる	0	3
	必要に応じて行えばよく、必須ではない	0	
	学校の実態を十分に理解していないと改善に役立たない	2	
	学校が(教育委員会に相談しながら)主体的に改善を行うべき	1	
	現時点では有用性を判断できない	0	
	その他	0	
有効回答合計		29	29

◆都道府県

	記述内容	回答数	計
必要	学校運営の改善に役立つから(重要な示唆となる)	7	21
	助言がないと改善に結びつかない	0	
	学校改善が第三者評価の目的であるから (助言が最も重要、助言がないと第三者評価の意味がない)	4	
	新たな観点での方向性、改善策を得られるから	4	
	次年度の計画に役立つから	0	
	信頼できる提案や助言であるから、重みがあるから	0	
	専門家の意見を聞きたい、期待している	3	
	学校が求めているのは助言であるから	0	
	教職員に対する説得力があるから、学校改善のバックアップとなるから	0	
	設置者への要望がしやすい	0	
	すぐに実行できるから	0	
	参考にしたい、参考になる	0	
	評価委員を協力者と位置付けるほうがよいから	0	
	その他	3	
どちらともいえない	あれば目安になるが、なくてもわかる	0	1
	必要に応じて行えばよく、必須ではない	0	
	学校の実態を十分に理解していないと改善に役立たない	0	
	学校が(教育委員会に相談しながら)主体的に改善を行うべき	0	
	現時点では有用性を判断できない	1	
	その他	0	
有効回答合計		22	22

◆評価者

	記述内容	回答数	計
必要	学校運営の改善に役立つ(一助となる、重要な示唆となる)と思うから	15	178
	助言により改善に結びつきやすくなる	13	
	学校改善が第三者評価の目的であるから (助言が最も重要、助言がないと第三者評価の意味がない)	25	
	新たな観点での方向性、改善策を得られるから	16	
	学校が求めているのは助言であるから(期待していると思うから)	28	
	教職員に対する説得力があるから、学校改善のバックアップとなるから	3	
	(どのように改善したらいいか悩んでいる)学校にとって有益であると思うから	17	
	客観的な提案ができるため	3	
	具体的な方法が見え、改善策をスケジュール化しやすくなるから	1	
	職員の意欲向上に結び付くから	1	
	学校の自己認識を高めるために必要だから	3	
	専門的な助言が必要だから	8	
	設置者の協力を得るための後押しになる	2	
	その他	43	
どちらともいえない	専門性がないので助言できない	2	28
	教育委員会の指導・助言と関係するので検討が必要	0	
	調査期間が十分でなく、的確な助言ができるか自信がない	7	
	学校が(教育委員会に相談しながら)主体的に改善を行うべき	3	
	学校の成熟度による	2	
	評価委員の教育観や指導観が異なり、改善方策が一致しない	1	
	前提条件がある	7	
	助言が誤解や弊害を生む可能性がある	2	
その他	4		
不要	学校関係者評価が十分機能している	0	8
	学校がやり方を変えようとしていない場合がある	0	
	第三者評価でなくとも提言は可能である	1	
	その他	7	
有効回答合計		214	214

b.地方実施型

◆学校

	記述内容	回答数	計
必要	学校運営の改善に役立つから(重要な示唆となる)	13	59
	助言がないと改善に結びつかない	1	
	学校改善が第三者評価の目的であるから (助言が最も重要、助言がないと第三者評価の意味がない)	7	
	新たな観点での方向性、改善策を得られるから	7	
	次年度の計画に役立つから	1	
	信頼できる提案や助言であるから、重みがあるから	1	
	専門家の意見を聞きたい、期待している	7	
	学校が求めているのは助言であるから	2	
	教職員に対する説得力があるから、学校改善のバックアップとなるから	1	
	設置者への要望がしやすい	2	
	すぐに実行できるから	2	
	参考にしたい、参考になる	8	
	評価委員を協力者と位置付けるほうがよいから	1	
	その他	6	
	どちらともいえない	あれば目安になるが、なくてもわかる	
必要に応じて行えばよく、必須ではない		0	
学校の実態を十分に理解していないと改善に役立たない		1	
学校が(教育委員会に相談しながら)主体的に改善を行うべき		2	
現時点では有用性を判断できない		1	
その他		0	
有効回答合計		64	64

◆設置者

	記述内容	回答数	計
必要	学校運営の改善に役立つから(重要な示唆となる)	3	24
	助言がないと改善に結びつかない	1	
	学校改善が第三者評価の目的であるから (助言が最も重要、助言がないと第三者評価の意味がない)	4	
	新たな観点での方向性、改善策を得られるから	3	
	次年度の計画に役立つから	0	
	信頼できる提案や助言であるから、重みがあるから	0	
	専門家の意見を聞きたい、期待している	6	
	学校が求めているのは助言であるから	1	
	教職員に対する説得力があるから、学校改善のバックアップとなるから	0	
	設置者への要望がしやすい	0	
	すぐに実行できるから	0	
	参考にしたい、参考になる	3	
	評価委員を協力者と位置付けるほうがよいから	1	
	その他	2	
どちらともいえない	あれば目安になるが、なくてもわかる	0	5
	必要に応じて行えばよく、必須ではない	2	
	学校の実態を十分に理解していないと改善に役立たない	0	
	学校が(教育委員会に相談しながら)主体的に改善を行うべき	2	
	現時点では有用性を判断できない	0	
	その他	1	
有効回答合計		29	29

◆受託者

	記述内容	回答数	計
必要	学校運営の改善に役立つから(重要な示唆となる)	1	8
	助言がないと改善に結びつかない	0	
	学校改善が第三者評価の目的であるから (助言が最も重要、助言がないと第三者評価の意味がない)	2	
	新たな観点での方向性、改善策を得られるから	1	
	次年度の計画に役立つから	0	
	信頼できる提案や助言であるから、重みがあるから	0	
	専門家の意見を聞きたい、期待している	3	
	学校が求めているのは助言であるから	1	
	教職員に対する説得力があるから、学校改善のバックアップとなるから	0	
	設置者への要望がしやすい	0	
	すぐに実行できるから	0	
	参考にしたい、参考になる	0	
	評価委員を協力者と位置付けるほうがよいから	0	
	その他	0	
どちらともいえない	あれば目安になるが、なくてもわかる	0	2
	必要に応じて行えばよく、必須ではない	0	
	学校の実態を十分に理解していないと改善に役立たない	1	
	学校が(教育委員会に相談しながら)主体的に改善を行うべき	0	
	現時点では有用性を判断できない	0	
	その他	1	
有効回答合計		10	10

◆評価者

	記述内容	回答数	計
必要	学校運営の改善に役立つ(一助となる、重要な示唆となる)と思うから	16	94
	助言により改善に結びつきやすくなる	3	
	学校改善が第三者評価の目的であるから (助言が最も重要、助言がないと第三者評価の意味がない)	17	
	新たな観点での方向性、改善策を得られるから	6	
	学校が求めているのは助言であるから(期待していると思うから)	9	
	教職員に対する説得力があるから、学校改善のバックアップとなるから	1	
	(どのように改善したらいいか悩んでいる)学校にとって有益であると思うから	9	
	客観的な提案ができるため	3	
	具体的な方法が見え、改善策をスケジュール化しやすくなるから	2	
	職員の意欲向上に結び付くから	1	
	学校の自己認識を高めるために必要だから	7	
	専門的な助言が必要だから	2	
	設置者の協力を得るための後押しになる	0	
	その他	18	
どちらともいえない	専門性がないので助言できない	3	10
	教育委員会の指導・助言と関係するので検討が必要	1	
	調査期間が十分でなく、的確な助言ができるか自信がない	2	
	学校が(教育委員会に相談しながら)主体的に改善を行うべき	1	
	学校の成熟度による	1	
	評価委員の教育観や指導観が異なり、改善方針が一致しない	0	
	前提条件がある	0	
	助言が誤解や弊害を生む可能性がある	0	
その他	2		
不要	学校関係者評価が十分機能している	1	6
	学校がやり方を変えようとしていない場合がある	1	
	第三者評価でなくとも提言は可能である	0	
	その他	4	
有効回答合計		110	110



②実施時期・日程等

調査時期として最も適切だと考える時期について

a.国実施型

◆学校

記述内容		回答数	計
P D C A サイクルとの関連	自己評価・学校関係者評価の実施時期との関係から	4	12
	中間評価の時期だから	1	
	後期の学校運営・改善の参考になるから	0	
	教育指導計画の見直しに有用だから	0	
	その後（当該年度内）の教育活動の改善に有用だから	0	
	一定の成果が見える時期だから	4	
	次年度の予算編成との関係から	0	
	次年度の運営計画（改善）に反映できるから	2	
	その他	1	
学校の状態	学校行事との関係から（平常状態の学校、落ち着いている）	25	34
	教育活動・学校運営の充実期であるから	4	
	教職員に時間的・精神的ゆとりのある時期だから	1	
	その他	4	
その他		2	2
有効回答合計		48	48

◆設置者

記述内容		回答数	計
P D C Aサイクルとの関連	自己評価・学校関係者評価の実施時期との関係から	8	24
	中間評価の時期だから	4	
	後期の学校運営・改善の参考になるから	0	
	教育指導計画の見直しに有用だから	0	
	その後（当該年度内）の教育活動の改善に有用だから	3	
	一定の成果が見える時期だから	5	
	次年度の予算編成との関係から	0	
	次年度の運営計画（改善）に反映できるから	4	
その他	0		
学校の状態	学校行事との関係から（平常状態の学校、落ち着いている）	12	14
	教育活動・学校運営の充実期であるから	1	
	教職員に時間的・精神的ゆとりのある時期だから	1	
	その他	0	
その他		7	7
有効回答合計		45	45

b地方実施型

◆学校

記述内容		回答数	計
P D C A サイクルとの関連	自己評価・学校関係者評価の実施時期との関係から	13	62
	中間評価の時期だから	8	
	後期の学校運営・改善の参考になるから	4	
	教育指導計画の見直しに有用だから	1	
	その後（当該年度内）の教育活動の改善に有用だから	6	
	一定の成果が見える時期だから	10	
	次年度の予算編成との関係から	3	
	次年度の運営計画（改善）に反映できるから	13	
	その他	4	
学校の状態	学校行事との関係から（平常状態の学校、落ち着いている）	23	35
	教育活動・学校運営の充実期であるから	7	
	教職員に時間的・精神的ゆとりのある時期だから	3	
	その他	2	
その他		4	4
有効回答合計		101	101

◆設置者

記述内容		回答数	計
P D C A サイクルとの関連	自己評価・学校関係者評価の実施時期との関係から	6	28
	中間評価の時期だから	3	
	後期の学校運営・改善の参考になるから	1	
	教育指導計画の見直しに有用だから	0	
	その後（当該年度内）の教育活動の改善に有用だから	3	
	一定の成果が見える時期だから	6	
	次年度の予算編成との関係から	1	
	次年度の運営計画（改善）に反映できるから	7	
	その他	1	
学校の状態	学校行事との関係から（平常状態の学校、落ち着いている）	7	8
	教育活動・学校運営の充実期であるから	1	
	教職員に時間的・精神的ゆとりのある時期だから	0	
	その他	0	
その他		0	0
有効回答合計		36	36

◆受託者

記述内容		回答数	計
P D C A サイクルとの関連	自己評価・学校関係者評価の実施時期との関係から	1	10
	中間評価の時期だから	3	
	後期の学校運営・改善の参考になるから	1	
	教育指導計画の見直しに有用だから	0	
	その後（当該年度内）の教育活動の改善に有用だから	2	
	一定の成果が見える時期だから	2	
	次年度の予算編成との関係から	0	
	次年度の運営計画（改善）に反映できるから	1	
その他	0		
学校の状態	学校行事との関係から（平常状態の学校、落ち着いている）	1	2
	教育活動・学校運営の充実期であるから	0	
	教職員に時間的・精神的ゆとりのある時期だから	1	
	その他	0	
その他		3	3
有効回答合計		15	15

③評価項目等

評価項目全般について

自己評価、学校関係者評価の項目と、第三者評価項目との関係について

a.国実施型

◆学校

	記述内容	回答数	計
重ねたほうがよい	自己評価・学校関係者評価の検証に役立つから	5	15
	第三者評価はあくまでも自己評価・学校関係者評価に基づくものであるから	1	
	学校経営と評価の関係が明確になるから	0	
	課題や改善策を明確化・焦点化しやすい(改善しやすい、とらえやすい)	1	
	重点目標の達成度を評価する際に関連付けがしやすい	0	
	同じ項目を多くの視点から評価するほうが客観的な結果が得られるから(信頼性が高まる)	6	
	学校評価全体の一貫性が得られるから(同じ観点で議論ができるから)	1	
	教職員の負担の軽減化のため	0	
	より具体的なアドバイスにつながるから	0	
	その他	1	
どちらでもない	重ねたほうがよい場合と別々のほうがよい場合とがある	3	9
	学校によって課題や重点が異なる	0	
	学校関係者評価と第三者評価では目的や視点が異なる	1	
	共通部分と別々の部分を組み合わせるのがよい(すべてを重ねる必要はない)	3	
	その他	2	
別々に設定したほうがよい	第三者評価は、自己評価や学校関係者評価とは目的や性質が異なるから	2	12
	学校関係者評価では評価しにくい内容もある。	1	
	専門的立場からの(客観的な立場からの)独自の項目設定が必要である	3	
	それぞれの評価を行う委員の立場や視点が異なるから	4	
	第三者評価は新たな気付きをもたらすものであるべきだから	0	
	重点以外の項目の評価により全体像が得られるから	1	
	第三者評価では、学校間のバランスをみるために同じ項目を設定する必要がある	0	
	設置者として入れたい項目がある	0	
	日程上の制限から	0	
その他	1		
有効回答合計		36	36

◆設置者

記述内容		回答数	計
重ねたほうがよい	自己評価・学校関係者評価の検証に役立つから	4	16
	第三者評価はあくまでも自己評価・学校関係者評価に基づくものであるから	2	
	学校経営と評価の関係が明確になるから	0	
	課題や改善策を明確化・焦点化しやすい(改善しやすい、とらえやすい)	3	
	重点目標の達成度を評価する際に関連付けがしやすい	0	
	同じ項目を多くの視点から評価するほうが客観的な結果が得られるから(信頼性が高まる)	3	
	学校評価全体の一貫性が得られるから(同じ観点で議論ができるから)	2	
	教職員の負担の軽減化のため	0	
	より具体的なアドバイスにつながるから	1	
	その他	1	
どちらでもない	重ねたほうがよい場合と別々のほうがよい場合とがある	2	2
	学校によって課題や重点が異なる	0	
	学校関係者評価と第三者評価では目的や視点が異なる	0	
	共通部分と別々の部分を組み合わせるのがよい(すべてを重ねる必要はない)	0	
	その他	0	
別々に設定したほうがよい	第三者評価は、自己評価や学校関係者評価とは目的や性質が異なるから	6	13
	学校関係者評価では評価しにくい内容もある。	0	
	専門的立場からの(客観的な立場からの)独自の項目設定が必要である	4	
	それぞれの評価を行う委員の立場や視点が異なるから	1	
	第三者評価は新たな気付きをもたらすものであるべきだから	1	
	重点以外の項目の評価により全体像が得られるから	0	
	第三者評価では、学校間のバランスをみるために同じ項目を設定する必要がある	0	
	設置者として入れたい項目がある	0	
	日程上の制限から	0	
	その他	1	
有効回答合計		31	31

b.地方実施型

◆学校

記述内容		回答数	計
重ねたほうがよい	自己評価・学校関係者評価の検証に役立つから	7	26
	第三者評価はあくまでも自己評価・学校関係者評価に基づくものであるから	0	
	学校経営と評価の関係が明確になるから	0	
	課題や改善策を明確化・焦点化しやすい(改善しやすい、とらえやすい)	9	
	重点目標の達成度を評価する際に関連付けがしやすい	2	
	同じ項目を多くの視点から評価するほうが客観的な結果が得られるから(信頼性が高まる)	4	
	学校評価全体の一貫性が得られるから(同じ観点で議論ができるから)	2	
	教職員の負担の軽減化のため	1	
	より具体的なアドバイスにつながるから	1	
	その他	0	
どちらでもない	重ねたほうがよい場合と別々のほうがよい場合とがある	4	9
	学校によって課題や重点が異なる	1	
	学校関係者評価と第三者評価では目的や視点が異なる	1	
	共通部分と別々の部分を組み合わせるのがよい(すべてを重ねる必要はない)	2	
	その他	1	
別々に設定したほうがよい	第三者評価は、自己評価や学校関係者評価とは目的や性質が異なるから	12	32
	学校関係者評価では評価しにくい内容もある。	1	
	専門的立場からの(客観的な立場からの)独自の項目設定が必要である	7	
	それぞれの評価を行う委員の立場や視点が異なるから	5	
	第三者評価は新たな気付きをもたらすものであるべきだから	1	
	重点以外の項目の評価により全体像が得られるから	1	
	第三者評価では、学校間のバランスをみるために同じ項目を設定する必要がある	1	
	設置者として入れたい項目がある	0	
	日程上の制限から	0	
	その他	4	
有効回答合計		67	67



◆設置者

	記述内容	回答数	計
重ねたほうがよい	自己評価・学校関係者評価の検証に役立つから	3	12
	第三者評価はあくまでも自己評価・学校関係者評価に基づくものであるから	0	
	学校経営と評価の関係が明確になるから	0	
	課題や改善策を明確化・焦点化しやすい(改善しやすい、とらえやすい)	2	
	重点目標の達成度を評価する際に関連付けがしやすい	1	
	同じ項目を多くの視点から評価するほうが客観的な結果が得られるから(信頼性が高まる)	1	
	学校評価全体の一貫性が得られるから(同じ観点で議論ができるから)	1	
	教職員の負担の軽減化のため	0	
	より具体的なアドバイスにつながるから	0	
その他	4		
どちらでもない	重ねたほうがよい場合と別々のほうがよい場合とがある	1	3
	学校によって課題や重点が異なる	0	
	学校関係者評価と第三者評価では目的や視点が異なる	0	
	共通部分と別々の部分を組み合わせたものがよい(すべてを重ねる必要はない)	2	
	その他	0	
別々に設定したほうがよい	第三者評価は、自己評価や学校関係者評価とは目的や性質が異なるから	2	11
	学校関係者評価では評価しにくい内容もある。	0	
	専門的立場からの(客観的な立場からの)独自の項目設定が必要である	2	
	それぞれの評価を行う委員の立場や視点が異なるから	2	
	第三者評価は新たな気付きをもたらすものであるべきだから	1	
	重点以外の項目の評価により全体像が得られるから	0	
	第三者評価では、学校間のバランスをみるために同じ項目を設定する必要はある	0	
	設置者として入れたい項目がある	1	
	日程上の制限から	1	
その他	2		
有効回答合計		26	26

◆受託者

	記述内容	回答数	計
重ねたほうがよい	自己評価・学校関係者評価の検証に役立つから	0	2
	第三者評価はあくまでも自己評価・学校関係者評価に基づくものであるから	1	
	学校経営と評価の関係が明確になるから	0	
	課題や改善策を明確化・焦点化しやすい(改善しやすい、とらえやすい)	0	
	重点目標の達成度を評価する際に関連付けがしやすい	0	
	同じ項目を多くの視点から評価するほうが客観的な結果が得られるから(信頼性が高まる)	0	
	学校評価全体の一貫性が得られるから(同じ観点で議論ができるから)	1	
	教職員の負担の軽減化のため	0	
	より具体的なアドバイスにつながるから	0	
	その他	0	
どちらでもない	重ねたほうがよい場合と別々のほうがよい場合とがある	0	2
	学校によって課題や重点が異なる	1	
	学校関係者評価と第三者評価では目的や視点が異なる	0	
	共通部分と別々の部分を組み合わせるのがよい(すべてを重ねる必要はない)	1	
	その他	0	
別々に設定したほうがよい	第三者評価は、自己評価や学校関係者評価とは目的や性質が異なるから	0	3
	学校関係者評価では評価しにくい内容もある。	0	
	専門的立場からの(客観的な立場からの)独自の項目設定が必要である	0	
	それぞれの評価を行う委員の立場や視点が異なるから	0	
	第三者評価は新たな気付きをもたらすものであるべきだから	2	
	重点以外の項目の評価により全体像が得られるから	0	
	第三者評価では、学校間のバランスをみるために同じ項目を設定する必要がある	0	
	設置者として入れたい項目がある	0	
	日程上の制限から	0	
	その他	1	
有効回答合計		7	7

評価項目の設定の仕方について

評価項目を学校の希望に基づいて設定したことについて

a. 国実施型

◆ 評価者

	記述内容	回答数	小計	合計	
適切	実施上	学校および評価者の負担の軽減ができる (日程を考慮すると絞り込む必要がある)	20	31	149
		学校	11		
	学校の改善	学校および評価者の負担の軽減ができる (日程を考慮すると絞り込む必要がある)	11	33	
		学校	11		
		学校の課題がより明確になり、効果的・重点的に評価できる (評価項目が重点化される)	19		
		学校の改善に対してより効果的に活用できる、有意義である	1		
	学校の特色・違い	学校と評価者が課題解決に向け一緒に考えることができる	2	25	
		自己評価・学校関係者評価とリンクさせることができる	2		
		学校により課題が異なるため	23		
	効果の向上	学校	2	20	
		学校の課題、教職員の問題意識に対応した評価・示唆が得られる	15		
	その他	よりよい評価の受け入れ、活用が図れる	5	40	
		意欲の向上に結び付けることができる	3		
		学校の思いをくみ取ることができる	5		
		学校のニーズにこたえることが必要	6		
		改善につなげるためには、主体性を尊重する必要がある	3		
		必要な共通項目が設定されていればよい	23		
不適切	項目設定の偏り	その他	5	72	76
		評価項目設定の理由や背景が不明確	11		
		改善すべき項目と評価項目とが一致しない可能性がある (実態と不整合)	15		
		自信のある項目を選択、学校の都合が優先される、偏り	1		
		必要な項目が選択されていない場合がある	6		
		他の項目についての評価が必要な場合、評価者が付け加えるべきである	6		
		学校が見逃している課題がある、重要な課題の見逃しにつながる	2		
		設置者の希望も入れるべき	2		
		希望の項目でなく、学校運営全般についての評価にすべき	3		
		学校全体の評価にならない	18		
		共通項目を法少し幅広く設定するべき	1		
		改善に結びつかない可能性がある	1		
		評価項目以外のコメントを書きづらい	1		
		評価者の専門性が限定される	4		
	その他	4			
どちらでも	判断できない	1	1	4	
ない	その他	3	3		
有効回答合計		229	229	229	

文部科学省が示した評価項目以外に評価を実施したほうがよかったと考えるものについて

a.国実施型

◆評価者

	記述内容	回答数	計		
項目	学校の組織運営の状況	1	21		
	学校関係者評価の状況	1			
	授業の状況	6			
	教育課程等の状況	4			
	教職員の研修の状況	2			
	児童生徒の人格的発達の状況	1			
	保健管理の状況	1			
	安全管理の状況	2			
	学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況	2			
	学校に関する情報提供の状況	1			
観点	全教員が自己評価の実施に関与しているか	1	2		
	中期的な目標の設定、それとリンクした重点目標の提示がなされているか	1			
新たな項目	学校運営を効率化し、教員が児童生徒と向きあう時間を確保するための業務改善への取り組みがなされているか	1	20		
	児童生徒が達成した教育の水準(アウトカム)	2			
	校種間連携の状況	2			
	設置者との連携の状況(設置者の支援状況)	5			
	教職員の意識や満足度	2			
	保護者や住民の学校教育への協力についての具体的項目(家庭学習、社会規範、しつけ、組織的安全確保体制の有無)	1			
	施設の状況	4			
	予算の状況	1			
	中長期的視野に立脚した専門教育の現状を経営に生かしているか	1			
	特別支援センターとしての役割の遂行状況	1			
	新たな観点	国際社会で生きていく子どもたちを育てる指導が行われているか		1	9
		社会の一員としての意識(規範意識)を身につけているか		1	
教員の自己研修の時間が保証されているか		1			
研究や研修が役立ったかどうかを点検する方法があるか		1			
学習指導要領改訂の重点項目		1			
教育課程を意識した学校予算の編成、執行計画の策定がなされているか		1			
購入した備品や教材が効果的に利用されているか		1			
設置者からの家庭教育の働き掛けがあるか		1			
学校予算書・決算書が適切に作成されているか		1			
その他	国としての基準や標準となる内容	1	2		
	一覧表を参考に設定したオリジナルの評価項目	1			
有効回答合計		54	54		

事前記入シートの評価項目例以外に評価を実施したほうがよかったと考えるものについて

a.国実施型

◆学校

記述内容	
体力をつける取組についての項目が工夫されてあるとよいと思った。	
有効回答合計	1

◆設置者

記述内容	
示されている項目以外に、必要に応じて学校が付け加えることができるようにすればよい。	
示されている項目を学校が評価を望むより具体的な項目とできるような工夫があればよい。	
〈教育課程等の状況〉児童生徒の実態を踏まえた、個別指導やグループ別指導、習熟度に応じた指導、補充的な学習や発展的な学習など、個に応じた指導が適切に計画されているか。	
〈授業の状況〉学級内における児童生徒の様子や、学習に適した環境に整備されているかなど、学級経営が円滑に行われている。	
〈特別支援教育の状況〉(小学校、中学校、高等学校のみ)(特別支援学級)特別支援学級では、児童生徒の障害の程度を考慮の上、特別支援学校学習指導要領を参考にした特別な教育課程	
〈特別支援教育の状況〉(小学校、中学校、高等学校のみ)(通級による指導)特別の指導の場(通級指導教室)は、児童生徒の障害に応じて適切に活用されているか。	
〈生徒指導の状況〉非行防止教室が適切に実施されているか。	
〈生徒指導の状況〉不登校児童生徒の状況や児童生徒の遅刻状況を把握し、上記用の改善を図るための取組が適切に実施されているか。	
〈児童生徒の人格的発達〉規範意識の向上に向けた指導が適切になされているか。	
〈児童生徒の人格的発達〉(特別支援学校のみ)個別の幼児児童生徒が自立を目指し、障害に基づく種々の困難を肢体的に改善・克服するための適切な指導が行われているか。	
〈児童生徒の人格的発達〉(特別支援学校のみ)児童生徒が活動し易いように、自ら環境を整えたり、必要に応じて周囲の人の支援を求めたりするような指導が行われているか。	
〈保護者・地域社会との連携の状況〉(特別支援学校のみ)幼稚園、小学校、中学校、高等学校等の要請を受け、障害のある児童生徒又はその教師に対し、必要に助言、援助を行っている。	
※追加項目(高等学校、特別支援学校のみ)〈生徒募集・入学選抜の状況〉生徒募集が学校の魅力を踏まえて適切に行われているか。	
※追加項目(高等学校、特別支援学校のみ)〈生徒募集・入学選抜の状況〉入学者選抜が学校独自により適切に行われているか。	
有効回答合計	14

④評価手法

事前資料について

事前評価シートを含め、訪問校から事前に配布された資料はどのような情報が不十分だったかについて

a.国実施型

◆評価者

記述内容		回答数	計
量的情報	数量化できる基本情報全般(欠席率、不登校率など)	1	2
	過去3年間の学力調査、全国模試結果、生徒の学習状況調査、学年毎の概況・学力結果、教科枚の概況・学力結果のデータ	1	
	その他	0	
質的情報	学校経営案	1	10
	学校の教育計画	1	
	各種の全体計画	2	
	自己評価書・学校関係者評価書及び関連する資料	2	
	生徒による授業評価シート、授業評価の結果	1	
	校内研修テーマに関する資料(研修の内容や進捗状況)	1	
	学校だより	1	
	HPの内容が不十分	1	
その他	0		
その他	情報の出し渋りが感じられた(要求しないと出てこない)	2	12
	資料の種類、量の精選が必要	1	
	資料はあったが整理されていなかった	2	
	資料の内容に偏りがあった	5	
	事前記入シートの自己評価の具体的内容や根拠となる資料	1	
	学校の基本的なプロフィール	1	
有効回答合計		24	24

評価シートの作成について

改善策の提示についてどのような点が難しかったかについて

a.国実施型

◆評価者

	記述内容	回答数	計
改善策の提示自体	具体的な改善策を示すこと	5	5
改善策の的確さ	学校や地域の実情に応じた改善策を提示すること	19	35
	改善策が学校にとって適切であるかどうか自信がない	13	
	学校の方向性と異なる観点からの改善策の提示を行うべきかどうか迷った	3	
	新しい視点を提示すること	0	
評価の的確さ	学校の実情が十分に把握できていない可能性	17	17
自分の能力	専門的知識がない	3	5
	経験・知識が不足している	2	
その他	学校側の意識が低い	1	49
	学校も問題解決のために取り組んでいる	13	
	保護者や地域の改善にまでは踏み込みづらい	0	
	改善策を考えるのは学校であることを考えると、提示には躊躇がある	0	
	学校や教育委員会の努力だけでは解決できない問題があった	9	
	責任の重さ	1	
	評価対象校の教職員に的確に伝わるか不安	1	
	文章表現の難しさ	7	
	その他	17	
有効回答合計		111	111



b.地方実施型

◆評価者

	記述内容	回答数	計
改善策の提示自体	具体的な改善策を示すこと	7	7
改善策の的確さ	学校や地域の実情に応じた改善策を提示すること	3	13
	改善策が学校にとって適切であるかどうか自信がない	8	
	学校の方向性と異なる観点からの改善策の提示を行うべきかどうか迷った	2	
	新しい視点を提示すること	0	
評価の的確さ	学校の実情が十分に把握できていない可能性	12	12
自分の能力	専門的知識がない	6	9
	経験・知識が不足している	3	
その他	学校側の意識が低い	1	13
	学校も問題解決のために取り組んでいる	3	
	保護者や地域の改善にまでは踏み込みづらい	0	
	改善策を考えるのは学校であることを考えると、提示には躊躇がある	1	
	学校や教育委員会の努力だけでは解決できない問題があった	1	
	責任の重さ	1	
	評価対象校の教職員に的確に伝わるか不安	1	
	文章表現の難しさ	3	
その他	2		
有効回答合計		54	54

改善の提示についてどのような方策を講じれば困難がなくなるかについて

a.国実施型

◆評価者

	記述内容	回答数	計
評価日程	複数回の訪問を実施する	3	17
	スケジュール・日程にゆとりを持たせる(十分な評価が行えるよう)	2	
	インタビュー時間を十分に確保する	0	
	地域の人との教育談義の時間を確保する	0	
	評価チーム内での意見交換の時間を確保する	0	
	管理職との懇談、報告書の内容確認の時間を確保する	9	
	評価シート記入のための時間を十分に確保する	3	
評価方法	事前資料を充実させる	4	14
	教職員と教育談義をする	0	
	チーム内で相談する	5	
	報告書作成の仕方を変える、フォーマットを変える	2	
	評価方法の改善、工夫	2	
	評価項目をもっと具体的ににする	1	
資質向上	委員としての経験を積む	5	12
	職階・経験に応じた研修を行う	0	
	実地研修を行う	0	
	研修を受ける	1	
	能力のある評価者を確保する	1	
	チーム編成を工夫する	5	
その他	解決策についてのデータベースのようなものがあればよい	1	29
	学校があくまでも改善策の1例であることを認識する	0	
	改善策の的確さについては問題としない	0	
	改善案に対する評価をフィードバックする	1	
	設置者との相談、設置者からの支援のシステムを確立する	7	
	その他	20	
わからない・しかたない		3	3
今のままでよい		1	1
有効回答合計		76	76

b地方実施型

◆評価者

	記述内容	回答数	計
評価日程	複数回の訪問を実施する	3	11
	スケジュール・日程にゆとりを持たせる(十分な評価が行えるよう)	5	
	インタビュー時間を十分に確保する	0	
	地域の人との教育談義の時間を確保する	0	
	評価チーム内での意見交換の時間を確保する	2	
	管理職との懇談、報告書の内容確認の時間を確保する	1	
	評価シート記入のための時間を十分に確保する	0	
評価方法	事前資料を充実させる	0	3
	教職員と教育談義をする	1	
	チーム内で相談する	1	
	報告書作成の仕方を変える、フォーマットを変える	0	
	評価方法の改善、工夫	1	
	評価項目をもっと具体的ににする	0	
資質向上	委員としての経験を積む	4	9
	職階・経験に応じた研修を行う	1	
	実地研修を行う	1	
	研修を受ける	3	
	能力のある評価者を確保する	0	
	チーム編成を工夫する	0	
その他	解決策についてのデータベースのようなものがあればよい	1	11
	学校があくまでも改善策の1例であることを認識する	2	
	改善策の的確さについては問題としない	1	
	改善案に対する評価をフィードバックする	2	
	設置者との相談、設置者からの支援のシステムを確立する	1	
	その他	4	
わからない・しかたない		0	0
今のままでよい		0	0
有効回答合計		34	34

調査にかかる負担について

調査全体を通じてもっとも負担に感じたことについて

a.国実施型

◆学校

	記述内容	回答数	計
訪問前	資料の作成	4	15
	計画(学校のどこを見てもらうか、タイムスケジュールの調整)	7	
	保護者等の人選と日程調整	2	
	想定質問、指導案作成等の準備	2	
訪問中	時間的な制約が長いこと	0	0
	事務に影響	0	
	落ち着かない学級を見られること、よいところを見てほしいという気持ち	0	
	評価されるという緊張感	0	
	心理的負担、重圧	0	
	緊急事態の発生(生徒児童上、保健安全上など)	0	
事後	アンケートへの協力	0	0
全体	打ち合わせがなかったこと	0	1
	はじめての経験で全体像が見えなかったこと、見通しが立たなかったこと	1	
	日程の急な変更	0	
	正確に評価されるかという不安、取り組みが理解されるのかという不安	0	
	評価委員をどの程度信頼できるのか不安	0	
その他		6	6
特になし		6	6
有効回答合計		28	28

◆評価者

	記述内容	回答数	計
日程に関して	強行スケジュールであったこと(余裕がない)	13	19
	一日の拘束時間が長いこと	6	
事前準備に関して	事前準備の時間が十分に取れなかったこと	2	7
	事前資料の読み込み	5	
報告書の作成に関して	報告書(評価シート)をまとめること	33	77
	報告書作成の時間が少ない	37	
	文章表現	7	
調査に関して	短時間で、限られた情報から評価をしなければならないこと	7	29
	短い調査期間で、学校のすべてを把握すること (調査期間に比べて評価項目が多い)	5	
	事前資料から学校の状況を理解するのに手間がかかったこと	1	
	時間的な制約があり、十分なヒアリングが行えなかったこと	2	
	観察が効率よくできなかったこと	0	
	学校の努力に見合うだけの提案や助言が行えたかということ	10	
	適切に評価できたかどうか	3	
	必要な資料が提供されないこと	1	
本務との関係	本務が滞ること、本務の調整	3	4
	日程の調整、時間の確保	1	
自身の能力に関して	経験・専門的知識がないのに参加すること	3	3
その他	宿泊が必要であること	0	48
	アンケートへの回答	0	
	何のための第三者評価かがあいまいなこと	0	
	お客様扱い	1	
	学校の雰囲気	0	
	その他	47	
有効回答合計		187	187

b.地方実施型

◆学校

記述内容		回答数	計
訪問前	資料の作成	10	22
	計画(学校のどこを見てもらうか、タイムスケジュールの調整)	4	
	保護者等の人選と日程調整	6	
	想定質問、指導案作成等の準備	2	
訪問中	時間的な制約が長いこと	1	10
	事務に影響	1	
	落ち着かない学級を見られること、よいところを見てほしいという気持ち	1	
	評価されるという緊張感	1	
	心理的負担、重圧	4	
	緊急事態の発生(生徒児童上、保健安全上など)	2	
事後	アンケートへの協力	1	1
全体	打ち合わせがなかったこと	0	8
	はじめての経験で全体像が見えなかったこと、見通しが立たなかったこと	5	
	日程の急な変更	0	
	正確に評価されるかという不安、取り組みが理解されるのかという不安	2	
	評価委員をどの程度信頼できるのか不安	1	
その他		4	4
特になし		20	20
有効回答合計		65	65

◆評価者

	記述内容	回答数	計
日程に関して	強行スケジュールであったこと(余裕がない)	7	12
	一日の拘束時間が長いこと	5	
事前準備に関して	事前準備の時間が十分に取れなかったこと	1	5
	事前資料の読み込み	4	
報告書の作成に関して	報告書(評価シート)をまとめること	19	25
	報告書作成の時間が少ない	3	
	文章表現	3	
調査に関して	短時間で、限られた情報から評価をしなければならないこと	5	23
	短い調査期間で、学校のすべてを把握すること (調査期間に比べて評価項目が多い)	4	
	事前資料から学校の状況を理解するのに手間がかかったこと	1	
	時間的な制約があり、十分なヒアリングが行えなかったこと	2	
	観察が効率よくできなかったこと	1	
	学校の努力に見合うだけの提案や助言が行えたかということ	3	
	適切に評価できたかどうか	6	
	必要な資料が提供されないこと	1	
本務との関係	本務が滞ること、本務の調整	3	6
	日程の調整、時間の確保	3	
自身の能力に関して	経験・専門的知識がないのに参加すること	2	2
その他	宿泊が必要であること	1	19
	アンケートへの回答	1	
	何のための第三者評価かがあいまいなこと	1	
	お客様扱い	1	
	学校の雰囲気	1	
	その他	14	
有効回答合計		92	92

(3) 評価者について

① 評価者の在り方

必要な資質について

どのような方法で評価者の資質の確認・担保を行っているかについて

b. 地方実施型

◆ 設置者

記述内容	
評価者は、委員を委嘱する前に専門分野・経歴・過去の実績等を把握し、選定した。	
有効回答合計	1



### ③評価者の確保

#### 評価者の選定・確保

#### 評価者はどのようにして選定・確保したかについて

##### b.地方実施型

##### ◆設置者

記述内容	回答数
既に構築されていた関係から	3
教育委員会(指導主事含む)が持っていた情報から	4
独自の情報収集により	1
大学に依頼	0
関係団体に依頼	1
その他	0
有効回答合計	9

##### ◆受託者

記述内容	回答数
既に構築されていた関係から	3
教育委員会(指導主事含む)が持っていた情報から	1
独自の情報収集により	0
大学に依頼	2
関係団体に依頼	2
その他	0
有効回答合計	8

## 評価者の資質・能力の向上について

どのような属性の評価者を対象にしたかについて

### b.地方実施型

#### ◆設置者

記述内容	回答数
全評価者	6
教育委員会関係者を除く全評価者	1
経験者を除く全評価者	1
有効回答合計	8

#### ◆受託者

記述内容	回答数
全評価者	4
教育委員会関係者を除く全評価者	0
経験者を除く全評価者	0
有効回答合計	4

具体的な内容、プログラム、回数および時間数などについて

b.地方実施型

◆設置者

記述内容	回答数
第三者評価の目的と概要	3
実地検証事業内容の説明	0
ガイドライン(案)の説明	1
評価委員の業務内容の説明	2
評価委員の心構えと留意点	1
当該地域の学校評価システムについて	1
評価項目・指標についての説明	0
評価フォーマットについて説明	1
文科省の研修資料の説明	4
文科省の研修に参加	2
学校ごとに評価実施計画の確認	0
スケジュールの確認	0
その他	3
有効回答合計	18

記述内容	回答数
120分+90分(全2回)	1
2時間×3(全2回)+文科省の研修(2日)	1
2~3時間×2回	3
2時間×1	1
1時間×1	1
文科省の研修(2日)	1
1時間+90分	0
有効回答合計	8

◆受託者

記述内容	回答数
第三者評価の目的と概要	2
実地検証事業内容の説明	2
ガイドライン(案)の説明	0
評価委員の業務内容の説明	1
評価委員の心構えと留意点	0
当該地域の学校評価システムについて	0
評価項目・指標についての説明	2
評価フォーマットについて説明	0
文科省の研修資料の説明	0
文科省の研修に参加	0
学校ごとに評価実施計画の確認	1
スケジュールの確認	1
その他	1
有効回答合計	10

記述内容	回答数
120分+90分(全2回)	0
2時間×3(全2回)+文科省の研修(2日)	0
2～3時間×2回	1
2時間×1	1
1時間×1	1
文科省の研修(2日)	0
1時間+90分	1
有効回答合計	4

評価者の経験や能力に応じた評価能力の向上を図るために、研修以外にしていることについて

b.地方実施型

◆受託者

記述内容	
学校評価指導者養成研修会(西部ブロック)へチームリーダーを派遣するとともに、学校評価推進協議会(冬季)へ、市町教育委員会関係者、調査協力校教員を派遣し、学校評価、第三者評価の手法を身につけ、今後、各市町における第三者評価の実施に当たっては、評価委員として活用することも考えている。	
調査協力校訪問において、授業視察、ヒアリング等を実施したのち、チームによる打ち合わせを行い、事前提出資料や授業視察、ヒアリングから明らかになった成果や課題を出し合い、協議や共有	有効回答合計
	2

評価者に対する研修が不十分だと感じた

a. 国実施型

◆ 評価者

記述内容	回答数
評価基準についての研修	4
実際の評価場面を想定した実践的な演習	6
学校評価についての理解を深める研修	1
中立的・客観的な評価態度についての研修	2
ヒアリング等の評価技術についての研修	2
評価シート記入についての研修	3
組織マネジメントについての研修	1
チームでの研修・打ち合わせ	3
過去の事例の検討や総括	3
過去の体験談	0
未経験者に対する研修に工夫が必要	2
その他	9
有効回答合計	36

b. 地方実施型

◆ 評価者

記述内容	回答数
評価基準についての研修	0
実際の評価場面を想定した実践的な演習	1
学校評価についての理解を深める研修	1
中立的・客観的な評価態度についての研修	0
ヒアリング等の評価技術についての研修	0
評価シート記入についての研修	0
組織マネジメントについての研修	0
チームでの研修・打ち合わせ	0
過去の事例の検討や総括	1
過去の体験談	0
未経験者に対する研修に工夫が必要	0
その他	3
有効回答合計	6

(4) 評価結果とそれを踏まえた改善策について

② 評価結果の取扱い

結果の公表について

どのように評価結果の公表を行うかについて

a. 国実施型

◆ 学校

記述内容		回答数	
保護者・地域	学校だより	特に言及なし	1
		結果の概要	4
		その他	2
	口頭で	特に言及なし	1
		結果の概要	1
その他	その他	1	
学校関係者	文書	すべての結果	1
	その他	特に言及なし	1
保護者	学校だより	特に言及なし	1
学校評価委員会	口頭で	特に言及なし	1
		コピーを配布	特に言及なし
	すべての結果	1	
保護者・地域・一般	ホームページ	特に言及なし	1
		結果の概要	2
		その他	1
その他	学校だより	特に言及なし	1
	ホームページ	特に言及なし	2
有効回答合計		23	

◆ 設置者

記述内容	
武義高等学校では、第3回学校関係者評価委員会の資料として、「評価報告書」を活用することを望んでいるため、そこで公表する。	
内容、媒体については現時点では、未定。	
有効回答合計	2

b.地方実施型

◆学校

記述内容		回答数	
保護者・地域	学校だより	特に言及なし	8
		結果の概要	1
		その他	1
	ホームページ	その他	1
	口頭で	特に言及なし	1
		指摘を受けた良いところと課題	1
	文書	特に言及なし	1
	コピーを配布	結果の概要	1
特に言及なし		1	
その他	理解が深められる形で	1	
学校関係者	口頭で	特に言及なし	2
		指摘を受けた良いところと課題	1
	文書	特に言及なし	1
		指摘を受けた良いところと課題	1
コピーを配布	特に言及なし	1	
保護者	口頭で	特に言及なし	1
学校評価委員会	コピーを配布	すべての結果	1
保護者・地域・一般	ホームページ	特に言及なし	7
	文書	特に言及なし	1
—	—	特に言及なし	1
有効回答合計		34	

◆設置者

記述内容	
情報公開は大事だが、現在は研究(試行)として行っているため公表は行っていない。	
いずれ、学校関係者評価と同様にHPや学校便り等での公表を考えていきたい。	
村のホームページでの公表	
報告書での公表	
有効回答合計	4



## 結果の活用について

### 今後具体的に取り組む予定の対応について

#### a.国実施型

##### ◆設置者

記述内容	
学校評議員と学校関係者評価委員の役割の違いについて、当事者の理解を深めていきたい。人口が少ない本町にあっては、それぞれに別々の人材を委嘱することは極めて困難なので、会議開催のたびに出かけて行き、役割の違いを踏まえた助言をしていくことで対応したい。	
人的配置について検討する予定。	
予算措置で、学校支援に対応できないか検討する予定。	
学校ホームページの講師が円滑にできるようサポート体制の強化を図る。	
学校支援委員会と学校評価委員会の連携の在り方を再検討し学校関係者評価を充実したものにしたいと考えている。	
主体的に学ぶ生徒の育成のため、教師の授業に対する意識改革と指導方法の改善が、急務かつ重要であると考え。校長、教頭、教務主任研修会及び学校訪問等を通じて、指導を行う。	
改善が必要と指摘された事項について、早急に対応できるもの、年次計画で進めるもの等の確認・協議を関係課で行った。	
保幼小中の連携については、町全体の課題でもあるので町教育委員会が積極的に推進していきたい。	
学校と課題を共有し、より具体的に改善できるよう指導する。	
学校の自己評価と関係者評価では、その目的や性格がかなり異なる。しかし、自己評価を補完したり、高めたりするために、客観的な計測等とそれに基づく継続的な支援が必要である。そのためあり方を地元の大学と連携して研究していく。	
有効回答合計	10

◆都道府県

記述内容	
「学びフェスト」などと連動した学校評価のあり方等も含め、県としての「学校評価の手引き」(仮称)の作成に向け、教育センターなどでの調査・研究を計画中である。	
第三者評価が今後取り入れられるようになる前段として、各校の自己評価、学校関係者評価の充実を図る必要がある。ガイドラインのさらなる周知や研修会の企画など。	
「千葉県公立学校の第三者評価実地検証に関する報告書(仮称)」を作成して、県内の各学校への第三者評価の浸透・普及を図る。	
第三者評価について、県で設置している学校評価分析委員会で研究を行っていきたい。	
第三者評価を生かした学校評価のあり方についての研修会等の実施。	
有効回答合計	5

b.地方実施型

◆設置者

記述内容	
平成22年度に向けての人事異動を行う上での参考としたい。	
指摘していただいた改善の方策をもとに、学校と市教委で協議する場を設定し、今後の具体的な取組について検討する。	
教育委員会で、教育長をはじめ教育委員へ提示し、内容の報告と話し合いを行う。そのときに、話し合われた内容をもとに、教育委員会としての対応策を検討する。	
学校長をはじめ、教職員へ具体的に指導・助言をしていきたい。	
改善への具体的な助言・指導	
必要な予算措置	
校長会議や管理職の研修等で他校にも共通する課題としてとりあげ、学校運営の改善に役立てるよう周知を行う。	
改善が必要とされた点について、どのような改善策を講じているか、学校訪問・学校経営計画の提出等をおして町教育委員会として確認していきたい。	
第三者評価を行った学校の次年度の学校の取組状況を、注意深く確認していく。	
有効回答合計	9

(5) 国、都道府県の役割

地方が主体となって第三者評価を実施する場合、国や都道府県教育委員会の設置者、学校に対する関与・支援はどうあるべきかについて

a. 国実施型

◆ 設置者

	記述内容	回答数	計
国の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	1	6
	実施のノウハウについての情報提供	0	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	1	
	評価者の確保・養成	1	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	1	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	1	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	0	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	1	
県の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	1	6
	実施のノウハウについての情報提供	0	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	0	
	評価者の確保・養成	1	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	1	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	1	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	0	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	2	
両者（特定せず）	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	1	36
	実施のノウハウについての情報提供、指導	0	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	5	
	評価者の確保・養成	8	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	5	
	評価者バンクの一元的管理	1	
	実施のための予算措置（財政的支援）	9	
	日程調整への関与	1	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	3	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	3	
その他	1	1	
有効回答合計		49	49

◆都道府県

	記述内容	回答数	計
国の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	0	6
	実施のノウハウについての情報提供	1	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	2	
	評価者の確保・養成	2	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	1	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	0	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	0	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	0	
	県の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	
実施のノウハウについての情報提供		2	
ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）		2	
評価者の確保・養成		3	
評価者の選定（推薦・決定）の支援		2	
評価者バンクの一元的管理		0	
実施のための予算措置（財政的支援）		1	
日程調整への関与		0	
課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言		2	
第三者評価の趣旨の周知・啓発		0	
評価の動向についての情報提供		0	
第三者評価に関する相談窓口の設置		0	
その他		1	
両者（特定せず）		評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	0
	実施のノウハウについての情報提供、指導	2	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	1	
	評価者の確保・養成	0	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	2	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	1	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	1	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	0	
	その他		0
有効回答合計		26	26

b.地方実施型

◆学校

記述内容		回答数	計
国の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	0	3
	実施のノウハウについての情報提供	0	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	1	
	評価者の確保・養成	0	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	0	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	1	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	0	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	1	
県の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	0	7
	実施のノウハウについての情報提供	1	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	0	
	評価者の確保・養成	0	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	1	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	0	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	1	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	4	
両者（特定せず）	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	1	39
	実施のノウハウについての情報提供、指導	1	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	0	
	評価者の確保・養成	0	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	8	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	2	
	日程調整への関与	1	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	14	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	12	
その他	2	2	
有効回答合計	51	51	

◆設置者

	記述内容	回答数	計
国の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	0	4
	実施のノウハウについての情報提供	0	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	1	
	評価者の確保・養成	2	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	0	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	0	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	0	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	1	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	0	
	県の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	
実施のノウハウについての情報提供		0	
ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）		0	
評価者の確保・養成		0	
評価者の選定（推薦・決定）の支援		3	
評価者バンクの一元的管理		0	
実施のための予算措置（財政的支援）		1	
日程調整への関与		0	
課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言		0	
第三者評価の趣旨の周知・啓発		0	
評価の動向についての情報提供		0	
第三者評価に関する相談窓口の設置		0	
その他		0	
両者（特定せず）		評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	4
	実施のノウハウについての情報提供、指導	3	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	2	
	評価者の確保・養成	3	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	10	
	評価者バンクの一元的管理	1	
	実施のための予算措置（財政的支援）	10	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	2	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	2	
	その他	0	0
意義と目的について	1	1	
在り方について	2	2	
実施方法について	1	1	
意味なし	4	4	
有効回答合計		53	53

◆受託者

	記述内容	回答数	計
国の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	0	0
	実施のノウハウについての情報提供	0	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	0	
	評価者の確保・養成	0	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	0	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	0	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	0	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	0	
県の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	1	4
	実施のノウハウについての情報提供	0	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	1	
	評価者の確保・養成	1	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	0	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	0	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	0	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	1	
両者（特定せず）	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	0	6
	実施のノウハウについての情報提供、指導	2	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	0	
	評価者の確保・養成	1	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	3	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	0	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	0	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	0	
その他		0	0
有効回答合計		10	10



◆評価者

	記述内容	回答数	計
国の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	0	5
	実施のノウハウについての情報提供	0	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	3	
	評価者の確保・養成	1	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	0	
	評価者バンクの一元的管理	0	
	実施のための予算措置（財政的支援）	1	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	0	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	0	
	評価の動向についての情報提供	0	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	0	
	その他	0	
	県の支援	評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	
実施のノウハウについての情報提供		1	
ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）		1	
評価者の確保・養成		1	
評価者の選定（推薦・決定）の支援		0	
評価者バンクの一元的管理		0	
実施のための予算措置（財政的支援）		0	
日程調整への関与		0	
課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言		1	
第三者評価の趣旨の周知・啓発		0	
評価の動向についての情報提供		0	
第三者評価に関する相談窓口の設置		0	
その他		0	
両者（特定せず）		評価項目・評価基準の提示（フォーマットの作成）	4
	実施のノウハウについての情報提供、指導	3	
	ガイドラインの策定、事例集・ガイドブックの作成（方向性の示唆、モデルの提示）	11	
	評価者の確保・養成	9	
	評価者の選定（推薦・決定）の支援	10	
	評価者バンクの一元的管理	2	
	実施のための予算措置（財政的支援）	11	
	日程調整への関与	0	
	課題解決に向けての支援（財政的・人的・物的）と指導助言	7	
	第三者評価の趣旨の周知・啓発	5	
	評価の動向についての情報提供	1	
	第三者評価に関する相談窓口の設置	2	
	その他	8	
	その他	5	5
意義と目的について	2	2	
在り方について	12	12	
実施方法について	7	7	
意味なし	24	24	
有効回答合計	132	132	

(6) 学校種別・学校の設置者の別による特性への配慮

高等学校、中等教育学校、特別支援学校において小中学校と同様の評価項目で評価を行うことについて  
どのような点が不適切であったかについて

a. 国実施型

◆ 設置者

記述内容	
高等学校は、設置している学科により、教育内容が大きく異なり、そのことが各学校の特徴となっている。それらをどのように評価していくか、という観点も必要ではないか。	
学校なので共通する点はあるが、運営組織が異なるので、全てが同じでは評価が難しい。	
項目に共通性を持たせようとしすぎると、観点があいまいになる。	
今回の評価項目自体は共通して評価を行える可能性が高いが、指標については校種により基準を変えた方がよい。	
校種の特性に応じて追加する項目が必要であるとする。	
高等学校と特別支援学校の評価項目は、「児童生徒の状況」「生徒募集・入学者選抜の状況」の項目を追加した。	
有効回答合計	6

◆評価者

記述内容	
広域性や多様性を考慮する必要がある。	
高等学校ならではの項目が考えられる。	
高等学校の場合、どうしても学校運営全体が出口(大学・就職)を意図したものになっている。出口の成果(国立大へ〇〇人、有名私立大へ〇〇人)のとらえ方をどうおさえるかによって評価のあり方も変わってくるのではないかと考える。	
高等学校では評価しにくいのではないかと感じた項目があった。(例:特別支援教育の状況)	
学校種によって特定の課題があり、その評価も必要と思われる。高等学校は進路指導体制についての詳細な評価、特別支援学校は個別の支援計画に関する評価	
商業教育等の専門教育の現状と将来的展望を経営に活かす必要から項目を設定しても良いと感じた。	
障害が重度重複している子供の場合、小中と同じ視点で授業参観をしたり、学校経営を評価したりすることは出来にくいので。一方、小中と同様の視点が必要な障害種別の学校もある。	
特別支援学校は、特別支援教室において専門性を有している。そのため、【授業等の状況】<項目授業の状況><項目特別支援教育の状況>の項目については。小中学校と同様の評価項目ではなく、特別支援学校の特色を活かした評価項目が望ましいと考える。	
特別支援学校の学校運営責任者が学校運営の改善をめざして第三者評価を受ける時、どのような視点の評価が有効であるかを一考する必要がある。	
学校運営の面の評価は問題を感じなかったが、特別支援学校の授業評価は学校の特性に応じた評価項目に変更した方がよいと思う。「個に応じた特別支援」の点で評価しにくいところがあった	
学校種によって特定の課題があり、その評価も必要と思われる。高等学校は進路指導体制についての詳細な評価、特別支援学校は個別の支援計画に関する評価(再掲)	
<特別支援学校>基本的には同一項目でよいのだが、次の諸点については独自項目が必要と考える。	
校種に応じた独自項目を追加し、必要に応じて選択できるようにすることが望ましい。	
学校運営の状況では、(幼稚部)、小学部、中学部、高等部、(学校によっては高等部専攻科を設置する学校も)、と多種の学部を設置している学校が多いことから、それぞれの運営状況も考慮できるようにすること。	
教育課程の編成では、自立活動を設けているほか、領域・教科を合わせた指導など、特別支援学校独自の教育課程編成が行われていることから、それらの状況が評価項目にも反映しているほうが評価の記述がしやすい。	
学校教育法上、地域のセンター的な役割が付与されたことから、この点についての評価項目が必要ではないか。	
専門性や就労活動 についての項目が必要	
中学校ではクラブ活動・進路指導に注力されている。	
小学校ではクラス経営、中学校では教科という特有の課題がある。	
評価項目によっては、小中学校と高等学校とで、ウエイトの違いがあるように思います。	
大項目に問題はないが、小項目の内容は工夫の余地が大いにある	
学校種による特色があるので、その評価を行なうことが必要ではないか。	
教育課程の特殊性などを踏まえたうえで評価はなされるべきである。	
ただチェックするだけになる。	
項目以外に伝えるべき事項は、「上記以外に伝えるべき事項」の欄に記入されていた。小中学校同様の項目でも「上記以外に伝えるべき事項」に項目欄で対応できるものと考えます。	
学校組織運営が大規模なケースが多いため、いろんな工夫が見受けられる。できれば、組織特性を評価できるような細かい項目が必要	
有効回答合計	26

b.地方実施型

◆学校

記述内容	
大きな枠では、どの校種でも目標とすべき内容や評価項目は、同一なものになると思うが、校種による目標・評価項目の違いが存在するであろうと考える。	
同じ評価項目も当然あってよいが、高等学校は学校によって特性が大きく異なるので、その学校の特性をふまえた評価項目も入れるべきである。例えば、本校は、キャリア教育、進路指導、授業力の向上等に力を入れており、それらについての項目を多く取り入れるべきであると考えている。	
児童・生徒の発達段階により指導方針や指導方法が違うため、同様の評価項目でない方がよい。	
有効回答合計	3

◆設置者

記述内容	
小・中学校とはキャリア教育、地域社会との連携について、高校、特別支援学校では異なる状況がある。	
また、特別支援教育の状況では、特別支援学校のセンター的機能等小・中学校とは異なる評価項目が必要である。	
校種の特性に応じて追加する項目が必要であると考えている。	
高等学校と特別支援学校の評価項目は、「児童生徒の状況」「生徒募集・入学者選抜の状況」の項目を追加した。	
有効回答合計	4

◆評価者

記述内容	
したがって、大項目は小中学校と共通であっても、中・小項目においては工夫が必要になる。	
特別支援教育の場合、通常の教育の目標・内容に加えて、障害に対応する高い専門性が伴わなければ教育効果が期待できないと思います。例えば、生徒指導に関する項目より、専門性に関する項目に重点を置くべきだと考えます。	
小学校は原則、進学のことでは中学ほど考える必要がないので、中学校とは異なる視点が必要になる。	
県立高校、特支学校の場合は、小中学校に比べて専門性が格段に高く、また求められる役割も異なる。	
一律な評価ができる部分と求められる役割に応じた評価が必須であると思われる。	
中学校では進学意識の調査を行い、3年後を見越しながら授業を進める評価項目を増やすべきである。	
有効回答合計	6